

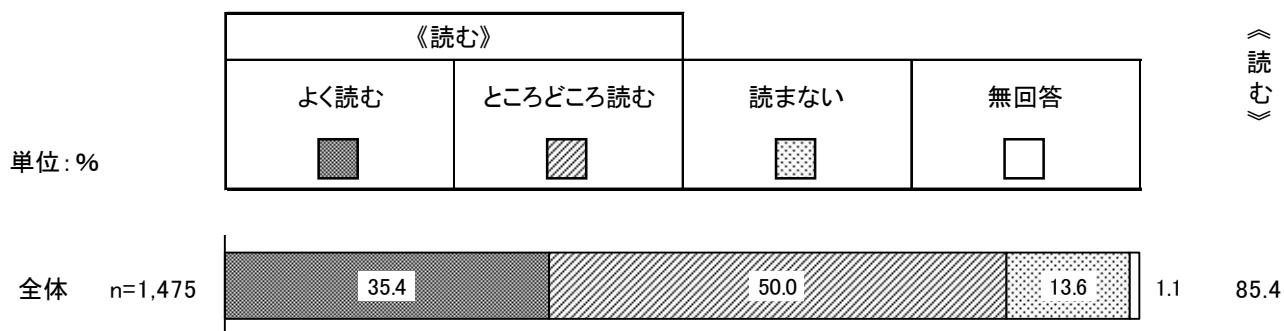
7 市政全般について

(1) 「広報川越」の閲覧状況

◇ 《読む》が85.4%

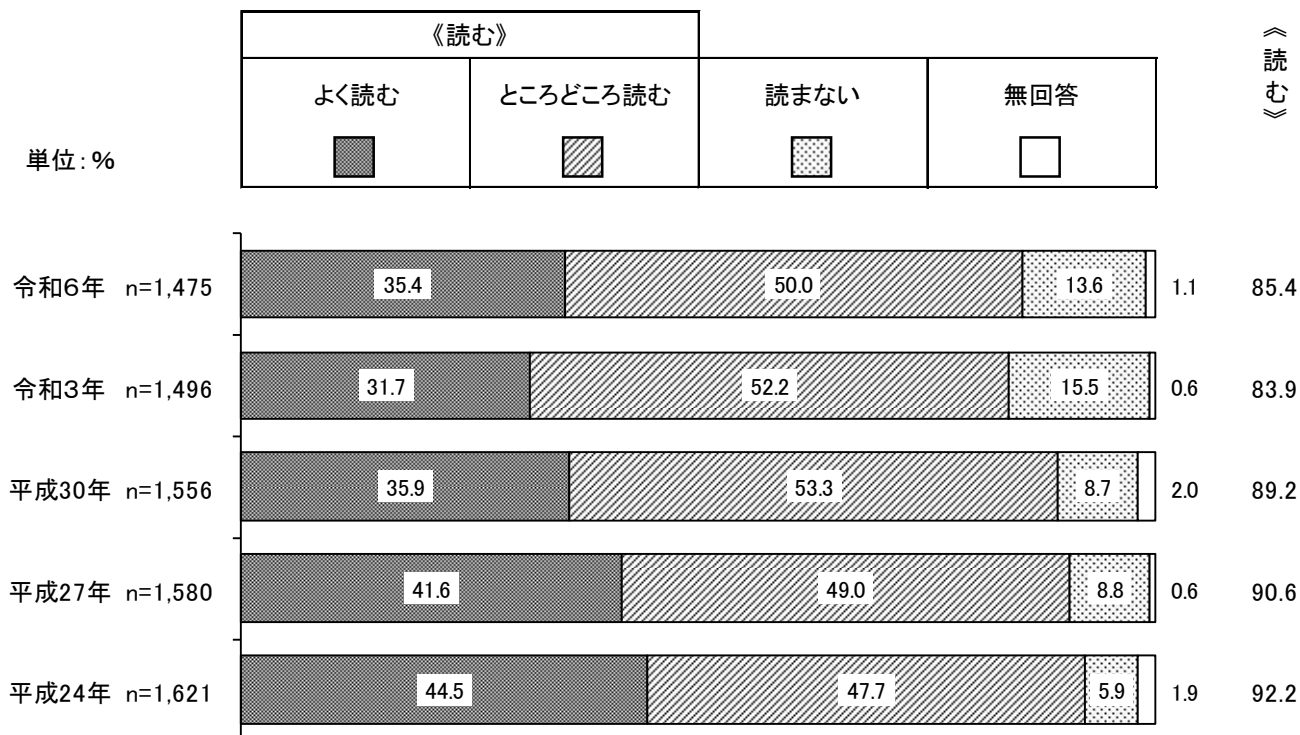
問 51 あなたは、「広報川越」をご覧になりますか。(1つのみ)

「広報川越」の閲覧状況については、「よく読む」、「ところどころ読む」の合計値《読む》が85.4%である一方、「読まない」が13.6%と、《読む》が71.8ポイント上回っている。



■ 時系列での比較

時系列でみると、《読む》は前回調査より1.5ポイント増加し、「読まない」は1.9ポイント減少している。



■ 性別・年代別

性別・年代別でみると、《読む》は男女とも20歳代以上では年代が高くなるほど増加傾向となっており、男性60歳代以上、女性50歳代以上は9割台と高くなっている。一方、「読まない」は男性20歳代で5割半ば、女性20歳代でほぼ5割と高くなっている。

単位：％	《読む》		読まない	無回答	《読む》 合計値
	よく読む	ところどころ読む			
全体 n=1,475	35.4	50.0	13.6	1.1	85.4

【性別・年代別】

男性 n=597	33.8	47.4	18.6	0.2	81.2
男性18・19歳 n=12	8.3	41.7	50.0	0.0	50.0
男性20歳代 n=50	16.0	28.0	56.0	0.0	44.0
男性30歳代 n=53	22.6	43.4	34.0	0.0	66.0
男性40歳代 n=83	22.9	49.4	27.7	0.0	72.3
男性50歳代 n=120	28.3	54.2	17.5	0.0	82.5
男性60歳代 n=113	38.9	54.0	7.1	0.0	92.9
男性70歳以上 n=166	50.6	44.6	4.2	0.6	95.2

女性 n=829	37.0	52.4	10.1	0.5	89.4
女性18・19歳 n=5	0.0	40.0	60.0	0.0	40.0
女性20歳代 n=57	8.8	42.1	49.1	0.0	50.9
女性30歳代 n=94	24.5	54.3	21.3	0.0	78.8
女性40歳代 n=148	25.7	63.5	10.8	0.0	89.2
女性50歳代 n=174	35.6	59.2	4.6	0.6	94.8
女性60歳代 n=141	43.3	53.2	3.5	0.0	96.5
女性70歳以上 n=209	56.0	40.7	1.9	1.4	96.7

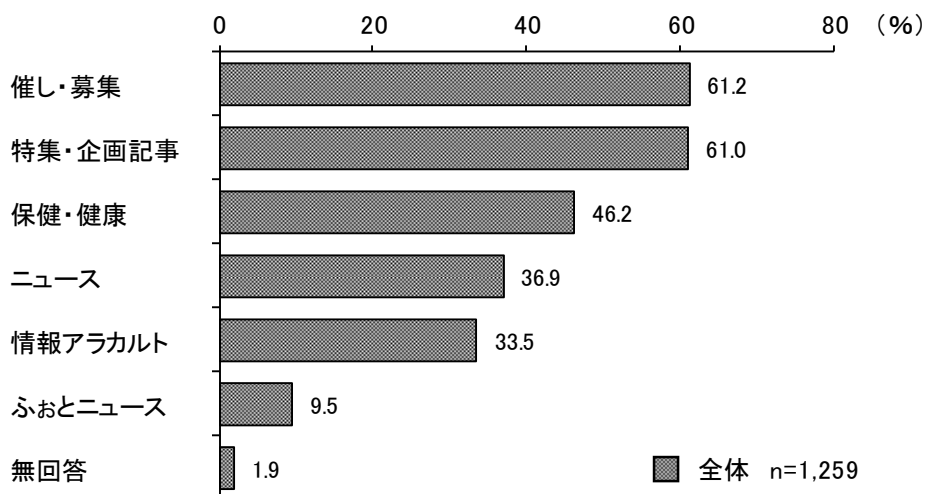
(2) 広報川越でよく読むコーナー

◇「催し・募集」が 61.2%

【問 51 で「よく読む」「ところどころ読む」と回答した方におたずねします。】

問 51-1 広報川越でよく読むコーナーを選んでください。(いくつでも)

広報川越でよく読むコーナーについては、「催し・募集」が 61.2%で最も高く、次いで「特集・企画記事」が 61.0%、「保健・健康」が 46.2%、「ニュース」が 36.9%となっている。



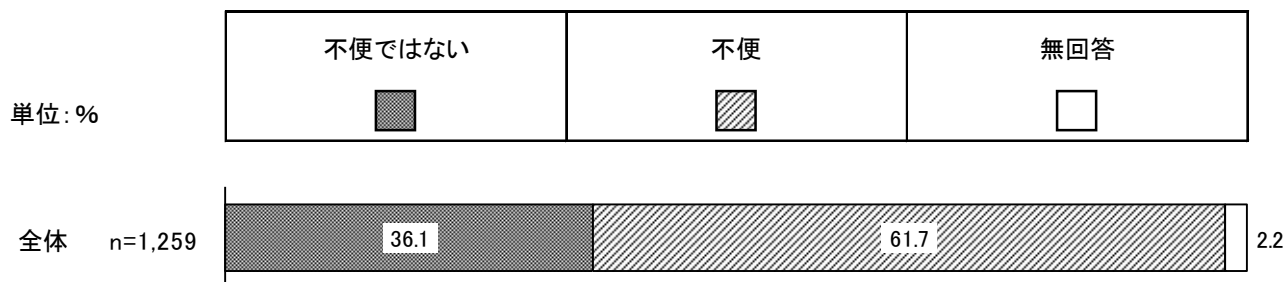
(3) 広報川越を電子版配信のみとした場合の利便性

◇「不便」が 61.7%

【問 51 で「よく読む」「ところどころ読む」と回答した方におたずねします。】

問 51-2 紙の広報川越を配布せず、電子版の配信のみとした場合、不便だと感じますか。
(1つのみ)

広報川越を電子版配信のみとした場合の利便性については、「不便ではない」が 36.1%、「不便」が 61.7%と、「不便」が 25.6 ポイント上回っている。

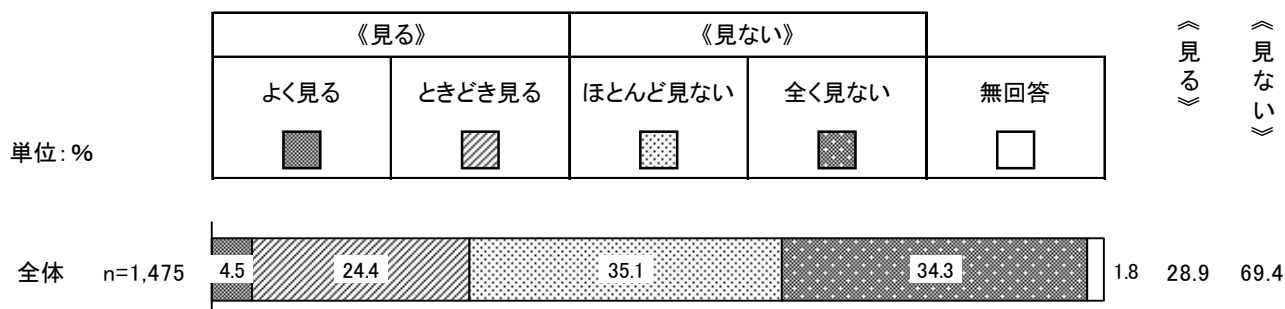


(4) 地域にある掲示板の閲覧状況

◇ 《見る》が 28.9%

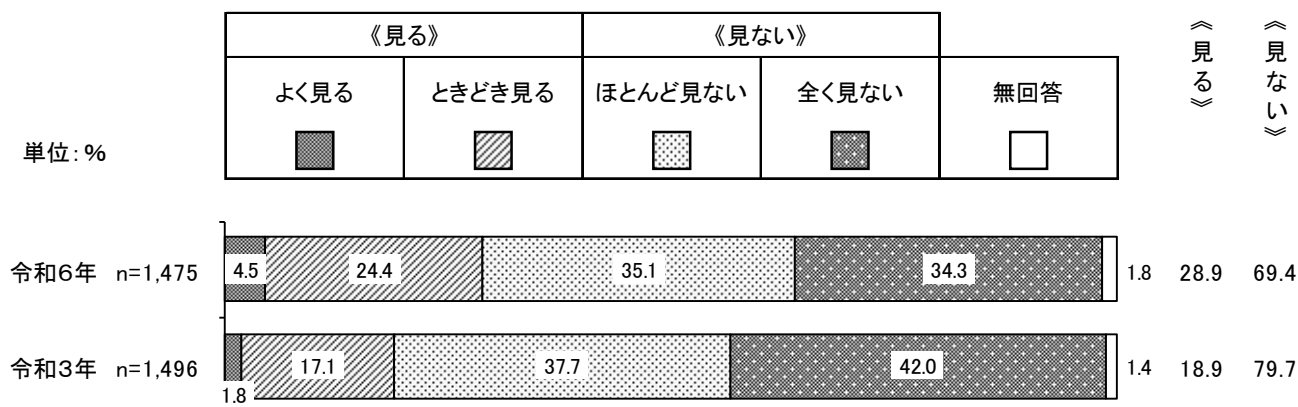
問 52 情報入手するため、お住まいの地域にある掲示板をご覧になることがありますか。
(1つのみ)

地域にある掲示板の閲覧状況については、「よく見る」、「ときどき見る」の合計値《見る》が 28.9%である一方、「ほとんど見ない」、「全く見ない」の合計値《見ない》は 69.4%と、《見ない》が 40.5 ポイント上回っている。



■ 時系列での比較

時系列でみると、《見る》は前回調査より 10.0 ポイント増加し、「見ない」は 10.3 ポイント減少している。

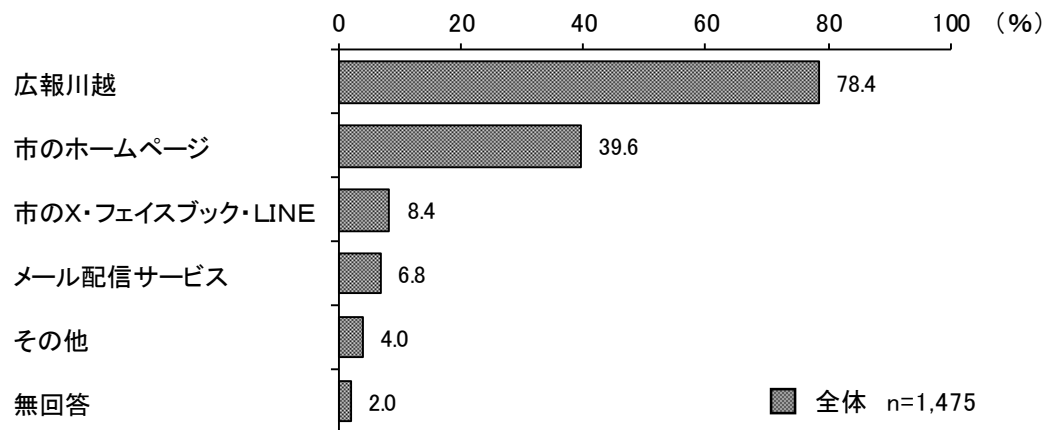


(5) 市の情報の入手方法

◇「広報川越」が78.4%

問 53 あなたは、市の情報をどのような方法で取得していますか。(いくつでも)

市の情報の入手方法については、「広報川越」が78.4%で最も高く、次いで「市のホームページ」が39.6%、「市のX・フェイスブック・LINE」が8.4%、「メール配信サービス」が6.8%となっている。



■ 性別・年代別

性別・年代別でみると、「市のホームページ」を除き、女性が男性より5ポイント以上高くなっている。「広報川越」は男女とも年代が高くなるほど増加する傾向となっており、男女とも30歳代以上で5割以上、男性70歳代以上、女性60歳代以上で9割台と高くなっている。「市のホームページ」は男性30歳代、40歳代、60歳代、女性40歳代、50歳代で5割台と高くなっている。また、「市のX・フェイスブック・LINE」は女性30歳代が26.6%で最も高く、女性40歳代以下で2割台となっているが、50歳代以上は1割未満であり、男性は20歳代を除き1割未満となっている。

単位: %	広報川越	市のホームページ	市のX・フェイスブック・LINE	メール配信サービス	その他	無回答
全体 n=1,475	78.4	39.6	8.4	6.8	4.0	2.0

【性別・年代別】

男性 n=597	75.5	41.5	4.9	3.5	4.9	2.0
男性18・19歳 n=12	58.3	25.0	8.3	8.3	8.3	16.7
男性20歳代 n=50	40.0	44.0	12.0	4.0	12.0	4.0
男性30歳代 n=53	58.5	50.9	5.7	1.9	11.3	1.9
男性40歳代 n=83	62.7	54.2	8.4	3.6	3.6	0.0
男性50歳代 n=120	76.7	44.2	4.2	6.7	5.0	3.3
男性60歳代 n=113	84.1	52.2	3.5	0.9	4.4	0.9
男性70歳以上 n=166	92.8	23.5	1.8	3.0	1.2	1.2
女性 n=829	81.4	38.8	11.2	9.3	3.4	1.0
女性18・19歳 n=5	40.0	40.0	20.0	0.0	40.0	0.0
女性20歳代 n=57	38.6	40.4	22.8	3.5	15.8	1.8
女性30歳代 n=94	63.8	48.9	26.6	12.8	5.3	1.1
女性40歳代 n=148	75.0	50.0	20.3	21.6	2.7	0.7
女性50歳代 n=174	84.5	50.6	8.6	8.0	2.3	0.0
女性60歳代 n=141	91.5	30.5	2.8	4.3	2.8	0.0
女性70歳以上 n=209	97.1	22.0	2.4	5.3	0.0	2.4

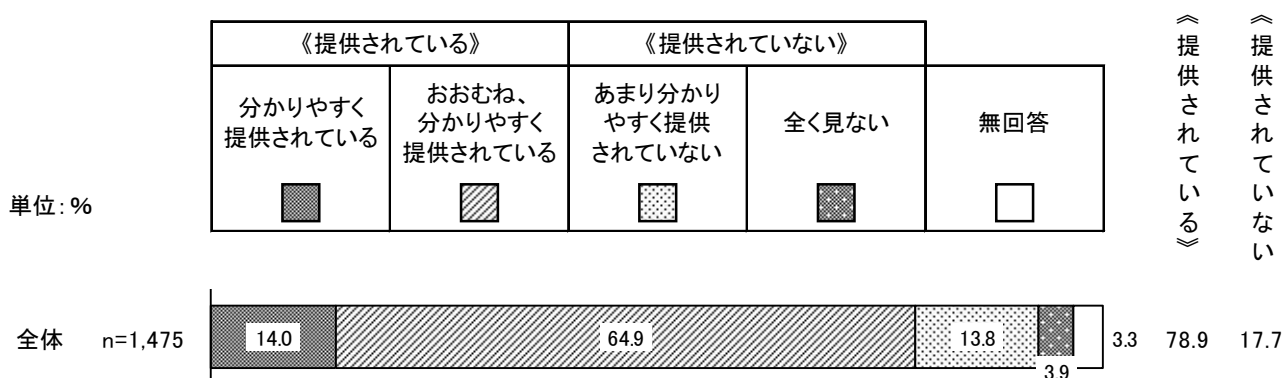
(6) 市の情報提供に対する満足度

◇ 《提供されている》が 78.9%

問 54 あなたは、市の行政に関する情報提供について、分かりやすく提供されていると思いますか。
(1つのみ)

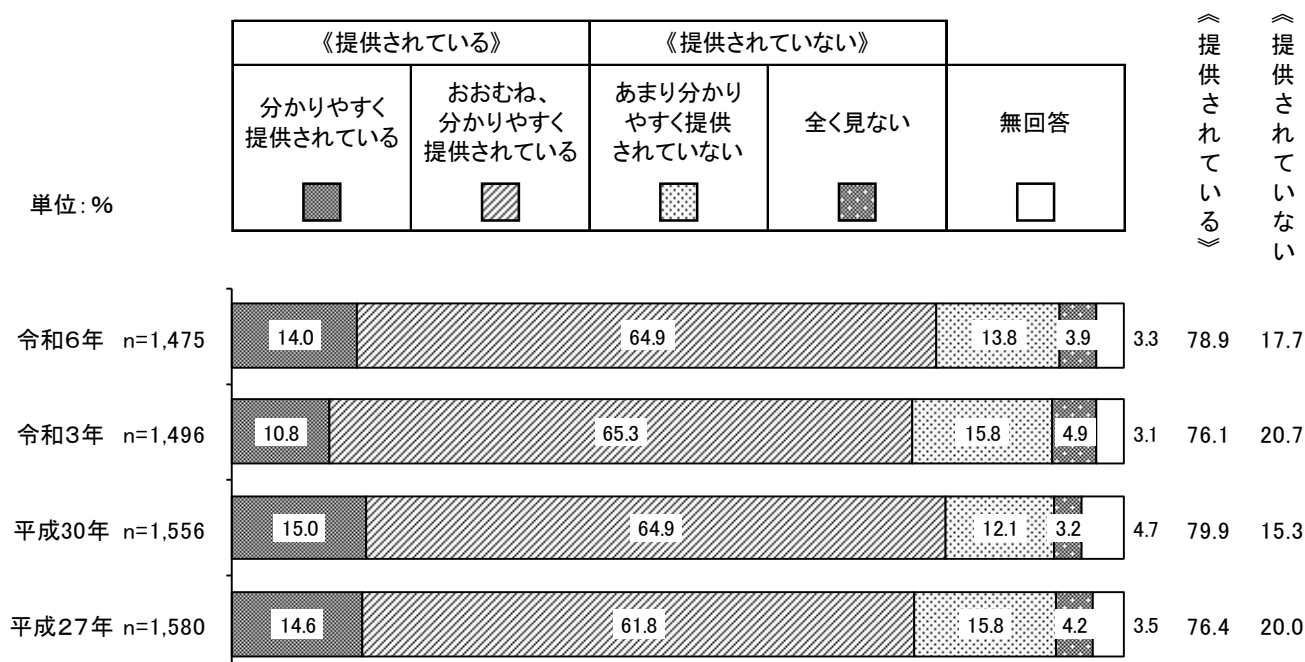
※「情報提供」とは、「広報川越」や市のホームページなどによるお知らせや情報公開制度による公文書の公開などを想定しています。

市の情報提供に対する満足度については、「分かりやすく提供されている」、「おおむね、分かりやすく提供されている」の合計値《提供されている》が 78.9%である一方、「あまり分かりやすく提供されていない」、「分かりやすく提供されていない」の合計値《提供されていない》は 17.7%と、《提供されている》が 61.2 ポイント上回っている。



■ 時系列での比較

時系列でみると、《提供されている》は前回調査より 2.8 ポイント増加し、《提供されていない》は 3.0 ポイント減少している。



■ 性別・年代別

性別・年代別でみると、《提供されている》は男性 50 歳代を除き 7 割以上となっており、男性 70 歳以上、女性 50 歳代以上で 8 割台と高くなっている。一方、《提供されていない》は男性 50 歳代、女性 20 歳代が 3 割近くと高くなっている。

単位：%	《提供されている》		《提供されていない》		無回答	《提供されている》 合計値	《提供されていない》 合計値
	分かりやすく 提供されている	おおむね、分 かりやすく提 供されている	あまり分 かりやすく 提供されて いない	全く見ない			
全体 n=1,475	14.0	64.9	13.8	3.9	3.3	78.9	17.7

【性別・年代別】

男性 n=597	14.2	62.3	14.2	6.4	2.8	76.5	20.6
男性18・19歳 n=12	16.7	66.7	16.7	0.0	0.0	83.4	16.7
男性20歳代 n=50	24.0	46.0	14.0	12.0	4.0	70.0	26.0
男性30歳代 n=53	20.8	52.8	15.1	9.4	1.9	73.6	24.5
男性40歳代 n=83	8.4	67.5	15.7	6.0	2.4	75.9	21.7
男性50歳代 n=120	11.7	56.7	19.2	9.2	3.3	68.4	28.4
男性60歳代 n=113	9.7	65.5	15.9	8.0	0.9	75.2	23.9
男性70歳以上 n=166	16.9	69.3	8.4	1.2	4.2	86.2	9.6

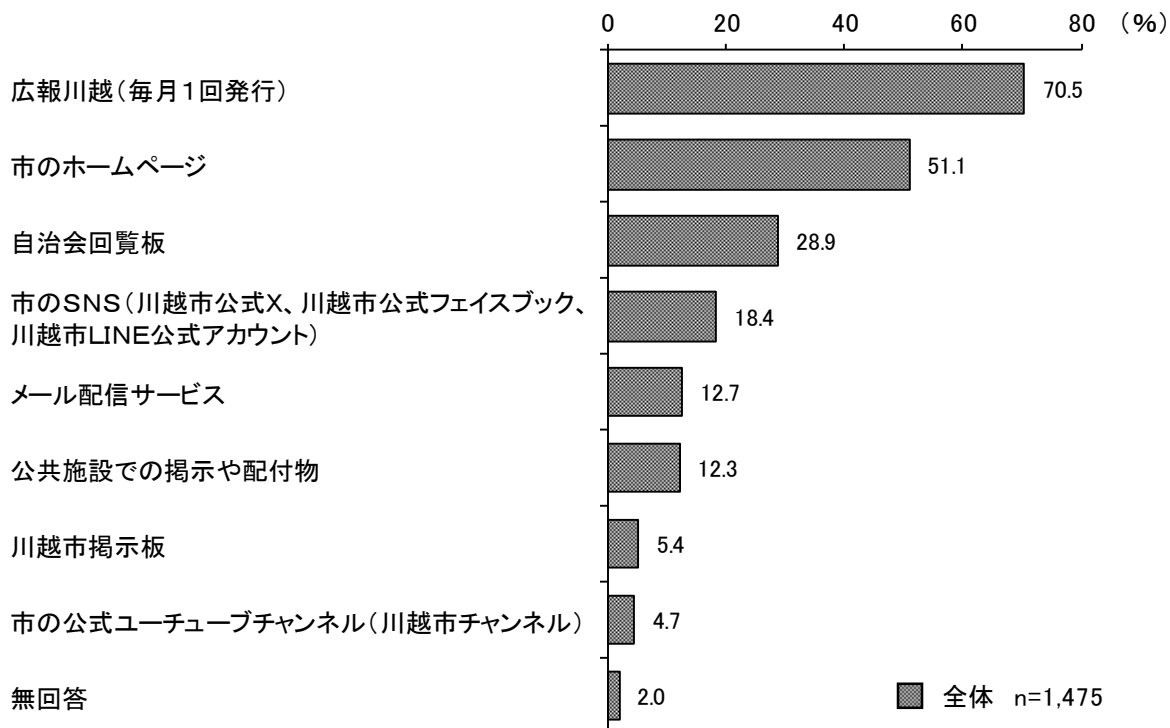
女性 n=829	14.2	68.2	13.1	2.2	2.3	82.4	15.3
女性18・19歳 n=5	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
女性20歳代 n=57	7.0	63.2	21.1	7.0	1.8	70.2	28.1
女性30歳代 n=94	14.9	58.5	19.1	6.4	1.1	73.4	25.5
女性40歳代 n=148	12.2	66.9	18.9	0.7	1.4	79.1	19.6
女性50歳代 n=174	12.1	77.6	8.0	1.7	0.6	89.7	9.7
女性60歳代 n=141	15.6	69.5	12.1	1.4	1.4	85.1	13.5
女性70歳以上 n=209	18.2	66.0	9.6	1.0	5.3	84.2	10.6

(7) 今後、利用したいと思う情報提供の媒体

◇「広報川越（毎月1回発行）」が70.5%

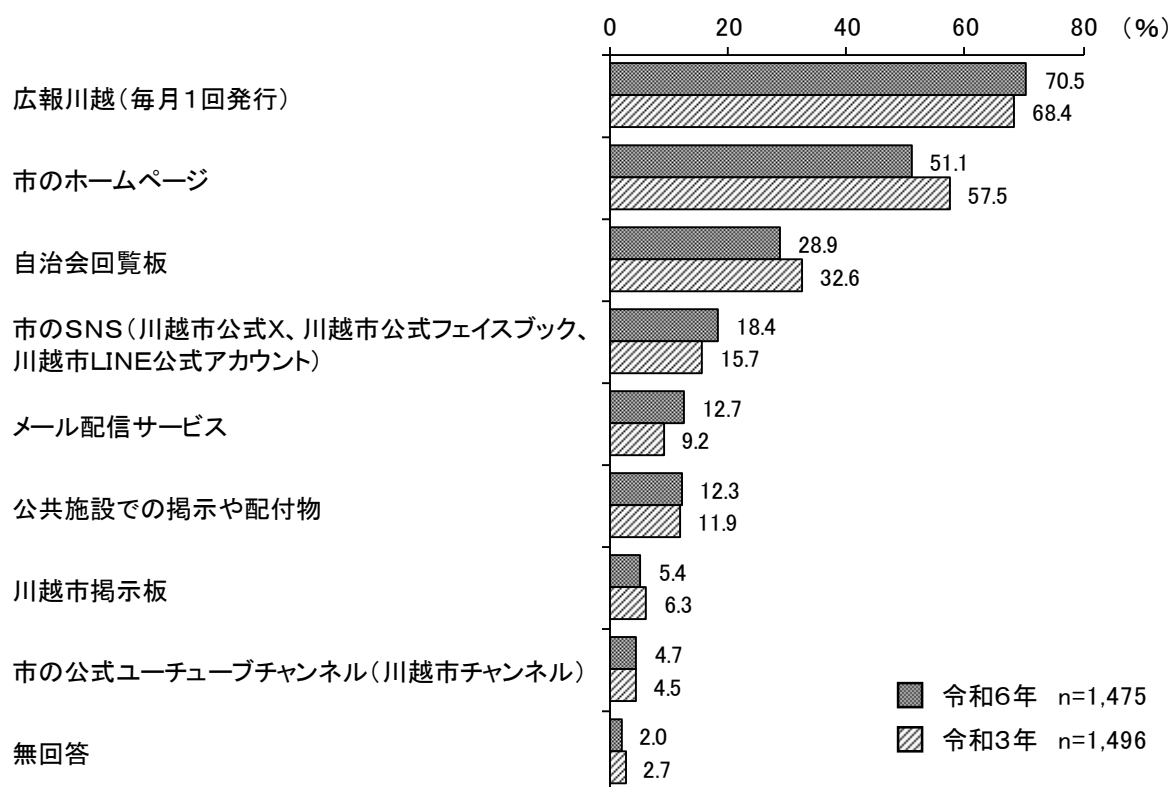
**問 55 市が情報を提供している方法のうち、あなたが今後利用したいと思う方法は何ですか。
（いくつでも）**

今後、利用したいと思う情報提供の媒体については、「広報川越（毎月1回発行）」が70.5%で最も高く、次いで「市のホームページ」が51.1%、「自治会回覧板」が28.9%、「市のSNS（川越市公式X、川越市公式フェイスブック、川越市LINE公式アカウント）」が18.4%となっている。



■ 時系列での比較

時系列でみると、「メール配信サービス」は前回調査より 3.5 ポイント増加し、「市の SNS（川越市公式 X、川越市公式フェイスブック、川越市 LINE 公式アカウント）」は 2.7 ポイント増加している。一方、「市のホームページ」は前回調査より 6.4 ポイント減少し、「自治会回覧板」は 3.7 ポイント減少している。



■ 性別・年代別（上位6項目）

上位6項目を性別・年代別でみると、「広報川越（毎月1回発行）」、「市のSNS（川越市公式X、川越市公式フェイスブック、川越市LINE公式アカウント）」、「メール配信サービス」は、女性が男性より4ポイント以上高くなっている。「広報川越（毎月1回発行）」は男女とも一部を除きおおむね年代が高くなるにつれ増加する傾向となっており、30歳代以上で5割以上、70歳代以上はほぼ9割と高くなっている。「自治会回覧板」もおおむね同様の傾向となっている。一方、「市のホームページ」は女性50歳代が7割近くで最も高く、男性30～60歳代、女性50歳代以下で5割以上と高くなっている。「市のSNS（川越市公式X、川越市公式フェイスブック、川越市LINE公式アカウント）」は男女とも20歳代が4割台で最も高く、年代が高くなるにつれ減少する傾向となっている。また、「メール配信サービス」は女性40歳代が3割近くと、他の年代に比べ高くなっている。

単位：％	広報川越（毎月1回発行）	市のホームページ	自治会回覧板	市のSNS（川越市公式X、川越市公式フェイスブック、川越市LINE公式アカウント）	メール配信サービス	公共施設での掲示や配付物
全体 n=1,475	70.5	51.1	28.9	18.4	12.7	12.3

【性別・年代別】

男性 n=597	67.8	51.9	27.3	15.7	10.6	12.1
男性18・19歳 n=12	33.3	66.7	8.3	33.3	0.0	16.7
男性20歳代 n=50	30.0	42.0	14.0	40.0	10.0	16.0
男性30歳代 n=53	56.6	52.8	11.3	22.6	7.5	7.5
男性40歳代 n=83	51.8	63.9	14.5	25.3	12.0	16.9
男性50歳代 n=120	65.8	58.3	21.7	12.5	14.2	6.7
男性60歳代 n=113	76.1	62.8	35.4	11.5	9.7	15.0
男性70歳以上 n=166	89.2	35.5	42.8	5.4	9.6	11.4

女性 n=829	73.3	51.3	30.6	20.5	14.6	12.2
女性18・19歳 n=5	40.0	60.0	20.0	40.0	0.0	0.0
女性20歳代 n=57	40.4	52.6	17.5	45.6	7.0	8.8
女性30歳代 n=94	54.3	55.3	22.3	43.6	12.8	14.9
女性40歳代 n=148	62.8	60.8	19.6	32.4	28.4	10.1
女性50歳代 n=174	74.1	67.8	27.6	17.8	16.7	13.8
女性60歳代 n=141	85.1	48.2	36.2	9.9	11.3	9.9
女性70歳以上 n=209	90.4	30.6	44.5	3.8	8.6	13.9

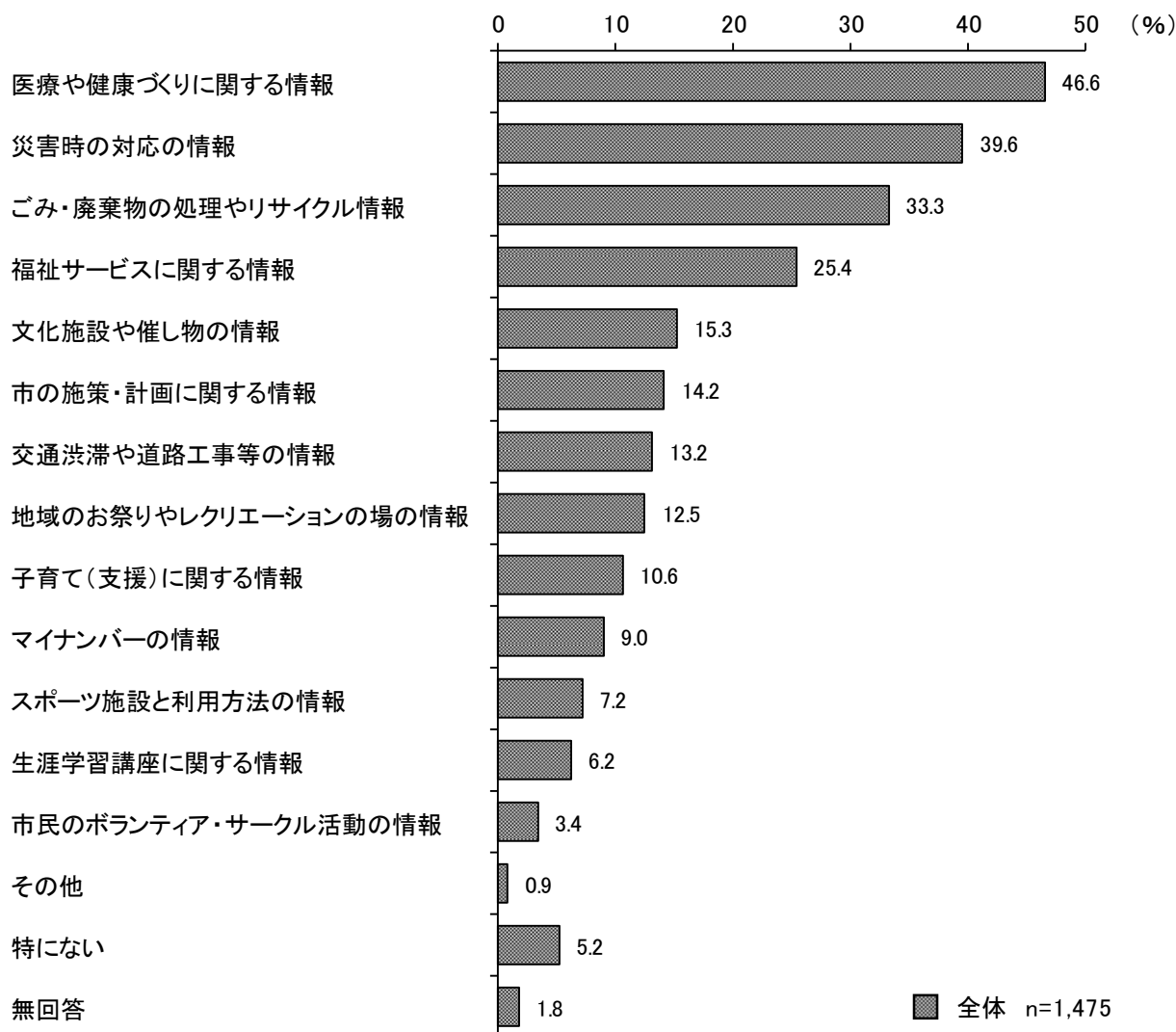
(8) 必要な市の行政情報

◇「医療や健康づくりに関する情報」が46.6%

問 56 あなたが今必要としている市からの情報は何か。

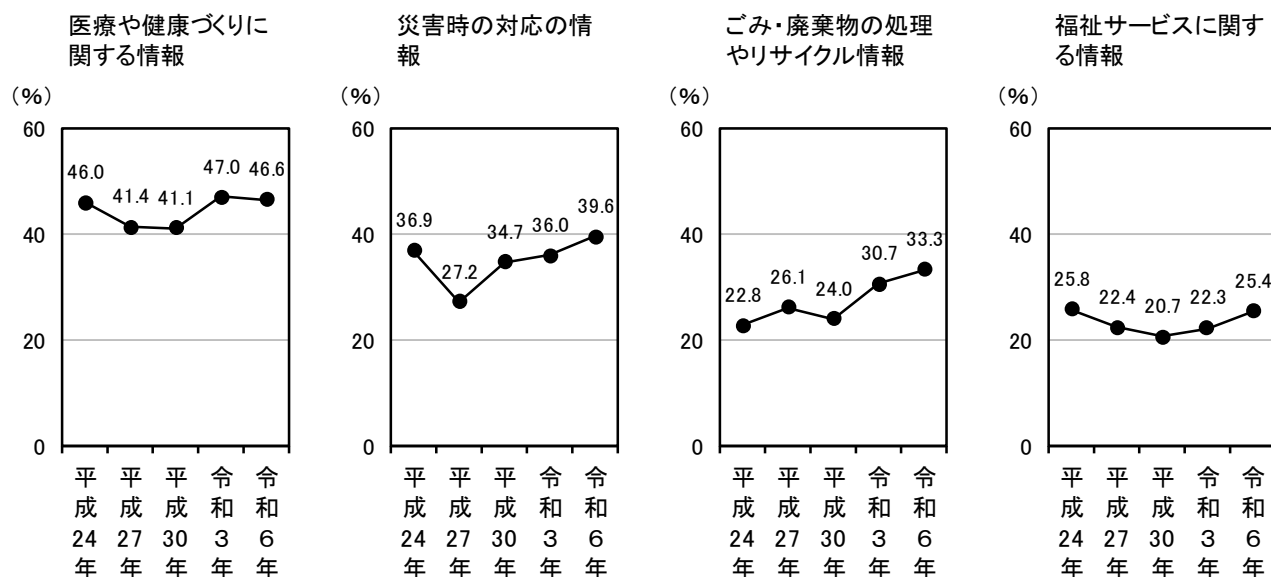
次の中から3つ以内で選んでください。(3つまで)

必要な市の行政情報については、「医療や健康づくりに関する情報」が46.6%で最も高く、次いで「災害時の対応の情報」が39.6%、「ごみ・廃棄物の処理やリサイクル情報」が33.3%、「福祉サービスに関する情報」が25.4%となっている。



■ 時系列での比較（上位4項目）

上位4項目を時系列でみると、「医療や健康づくりに関する情報」は前回調査から0.4ポイント減少したが、他3項目は増加傾向が続いている。



■ 性別・年代別（上位6項目）

上位6項目を性別・年代別でみると、「医療や健康づくりに関する情報」は男女とも60歳代以上で5割以上となっており、男性30歳代もほぼ5割と高くなっている。

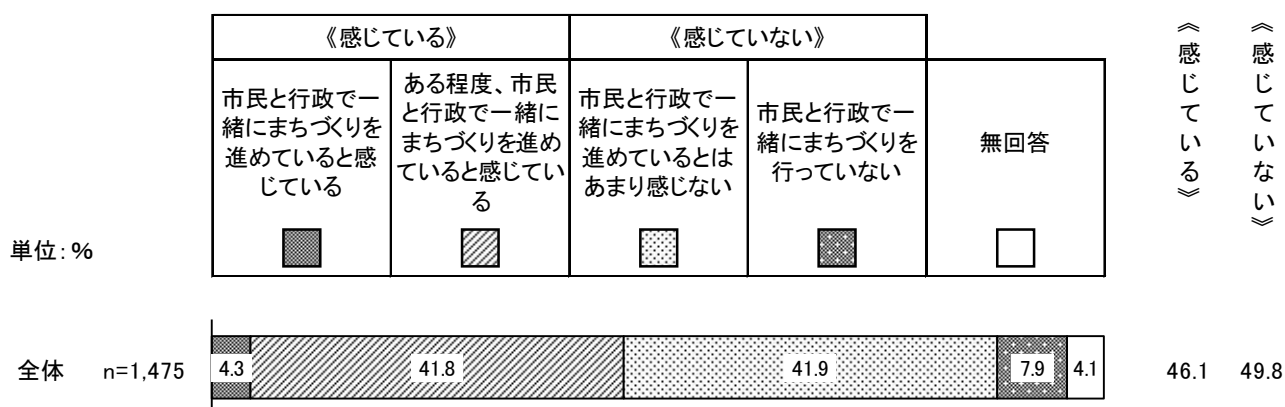
単位: %	医療や健康づくりに関する情報	災害時の対応の情報	ごみ・廃棄物の処理やリサイクル情報	福祉サービスに関する情報	文化施設や催し物の情報	市の施策・計画に関する情報
全体 n=1,475	46.6	39.6	33.3	25.4	15.3	14.2
【性別・年代別】						
男性 n=597	46.9	37.0	32.0	23.1	15.4	20.6
男性18・19歳 n=12	25.0	33.3	16.7	8.3	0.0	8.3
男性20歳代 n=50	18.0	26.0	18.0	10.0	16.0	18.0
男性30歳代 n=53	49.1	34.0	26.4	13.2	11.3	18.9
男性40歳代 n=83	32.5	31.3	33.7	14.5	19.3	21.7
男性50歳代 n=120	38.3	42.5	39.2	20.8	13.3	20.8
男性60歳代 n=113	56.6	36.3	38.1	33.6	15.0	20.4
男性70歳以上 n=166	63.3	41.0	28.9	30.1	17.5	22.3
女性 n=829	46.8	42.2	34.7	27.1	15.9	9.7
女性18・19歳 n=5	0.0	20.0	60.0	0.0	20.0	20.0
女性20歳代 n=57	38.6	36.8	28.1	15.8	12.3	8.8
女性30歳代 n=94	27.7	28.7	25.5	14.9	16.0	8.5
女性40歳代 n=148	35.8	46.6	39.9	16.9	13.5	10.1
女性50歳代 n=174	47.7	37.4	44.3	29.9	16.7	9.8
女性60歳代 n=141	53.9	53.2	32.6	33.3	17.0	11.3
女性70歳以上 n=209	60.8	44.0	29.7	37.3	17.2	8.1

(9) 市民・行政が協働したまちづくりの実態

◇ 《感じている》が46.1%

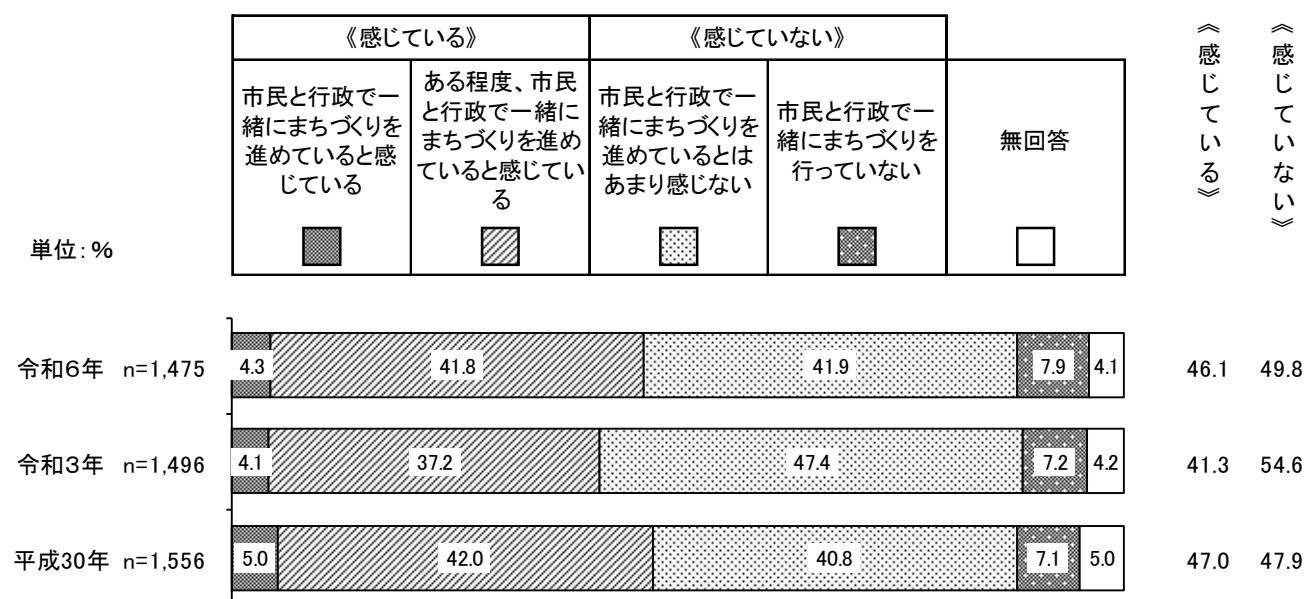
問 57 あなたは、市民と行政と一緒にまちづくりを進めていると感じていますか。(1つのみ)

市民・行政が協働したまちづくりの実態については、「市民と行政と一緒にまちづくりを進めていると感じている」、「ある程度、市民と行政と一緒にまちづくりを進めていると感じている」の合計値《感じている》が46.1%である一方、「市民と行政と一緒にまちづくりを進めているとはあまり感じない」、「市民と行政と一緒にまちづくりを行っていない」の合計値《感じていない》は49.8%と、《感じていない》が3.7ポイント上回っている。



■ 時系列での比較

時系列でみると、《感じている》は前回調査より4.8ポイント増加し、《感じていない》は4.8ポイント減少している。



■ 居住地区別

居住地区別でみると、《感じている》は「大東地区」が 52.2%で最も高く、次いで「本庁地区」が 49.3%、「高階地区」が 49.0%、「霞ヶ関北地区」が 48.0%となっている。一方、《感じていない》は「芳野地区」が 63.6%で最も高く、次いで「古谷地区」が 54.3%、「霞ヶ関地区」が 52.7%、「川鶴地区」及び「名細地区」が 52.1%となっている。

単位：%	《感じている》		《感じていない》		無回答	《感じて いる》 合計値	《感じて いない》 合計値
	市民と行政 と一緒にま ちづくりを進 めていると 感じている	ある程度、 市民と行政 と一緒にま ちづくりを進 めていると 感じている	市民と行政 と一緒にま ちづくりを進 めていると はあまり感 じない	市民と行政 と一緒にま ちづくりを 行っていない			
全体 n=1,475	4.3	41.8	41.9	7.9	4.1	46.1	49.8

【居住地区別】

本庁地区 n=330	4.5	44.8	39.7	8.2	2.7	49.3	47.9
芳野地区 n=44	4.5	29.5	59.1	4.5	2.3	34.0	63.6
古谷地区 n=59	5.1	35.6	45.8	8.5	5.1	40.7	54.3
南古谷地区 n=131	5.3	41.2	42.0	8.4	3.1	46.5	50.4
高階地区 n=157	7.0	42.0	36.9	10.8	3.2	49.0	47.7
福原地区 n=94	2.1	45.7	37.2	10.6	4.3	47.8	47.8
大東地区 n=138	5.8	46.4	37.0	8.7	2.2	52.2	45.7
霞ヶ関地区 n=163	1.8	40.5	46.0	6.7	4.9	42.3	52.7
川鶴地区 n=71	4.2	36.6	46.5	5.6	7.0	40.8	52.1
霞ヶ関北地区 n=52	3.8	44.2	42.3	5.8	3.8	48.0	48.1
名細地区 n=96	3.1	43.8	46.9	5.2	1.0	46.9	52.1
山田地区 n=77	2.6	44.2	46.8	3.9	2.6	46.8	50.7

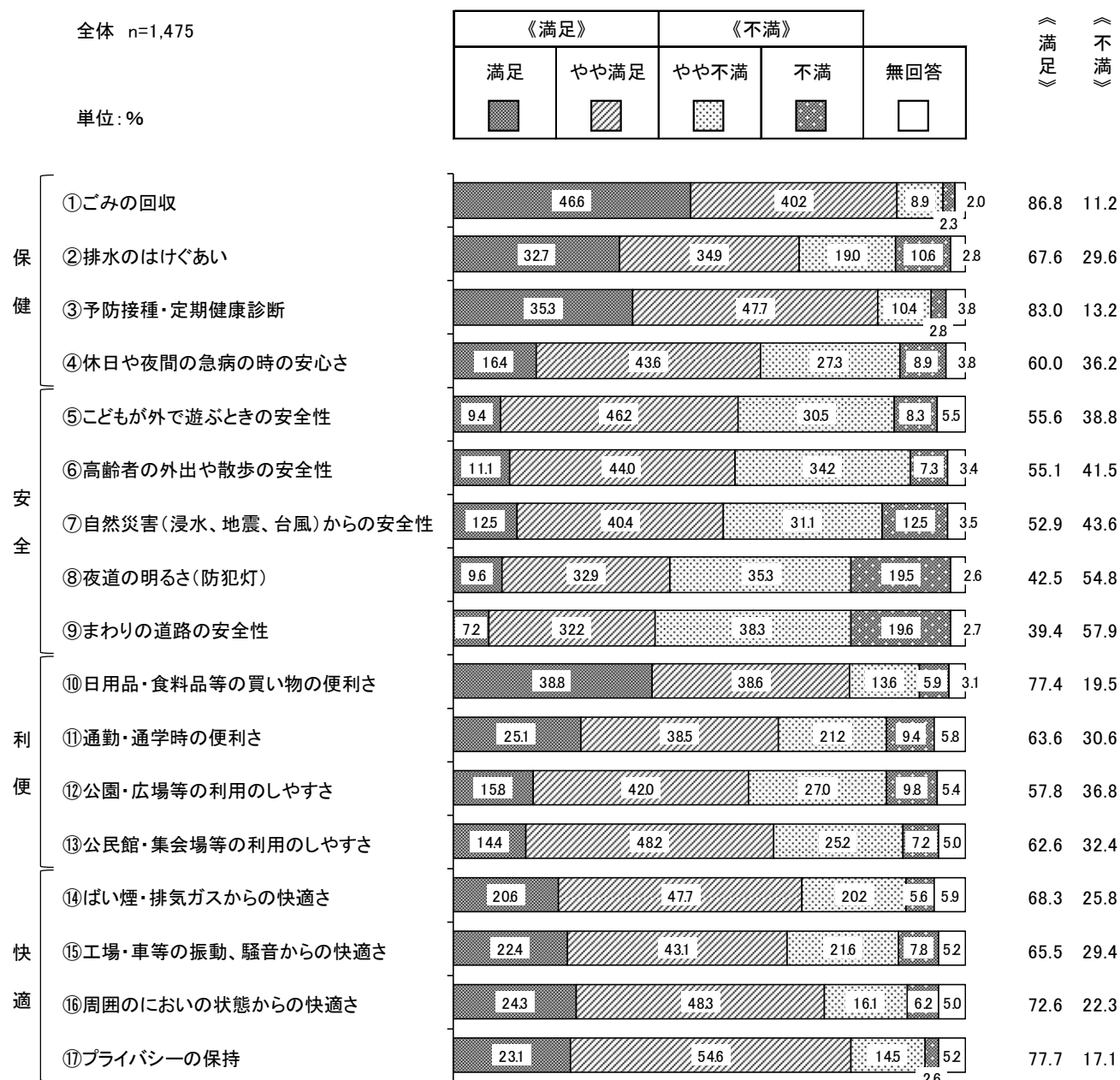
(10) 地域の生活環境の満足度

◇17 項目中 15 項目で《満足》が《不満》を上回っている

問 58 あなたの住んでいる地域の生活環境について、どのように感じていますか。

※①から⑰のそれぞれに回答してください。(それぞれ1つのみ)

地域の生活環境の満足度について、「満足」、「やや満足」の合計値《満足》は、“保健の分野”では『①ごみの回収』が 86.8%、“安全の分野”では『⑤子どもが外で遊ぶときの安全性』が 55.6%、“利便の分野”では『⑩日用品・食料品等の買い物の便利さ』が 77.4%、“快適の分野”では『⑰プライバシーの保持』が 77.7%で最も高くなっている。一方で、「やや不満」、「不満」の合計値《不満》は、“安全の分野”の『⑨まわりの道路の安全性』が 57.9%で最も高く、次いで“安全の分野”の『⑧夜道の明るさ(防犯灯)』が 54.8%となっており、この2項目のみ《不満》が《満足》を上回っている。



■ 居住地区別 地域の生活環境の満足度（評価点）

この質問では、項目間の比較を簡単にするため、下式のように5段階評価を与えて、各項目の評価点を算出した。

$$\text{評価点} = \frac{[\text{「満足」の回答者数} \times 2 \text{点}] + [\text{「やや満足」} \times 1 \text{点}] + [\text{「やや不満」} \times (-1 \text{点})] + [\text{「不満」} \times (-2 \text{点})]}{\text{回答者数} - \text{無回答}}$$

この算出方法では、評価点は-2.00点～+2.00点の間に分布し、0.00点が中間点であり、+2.00点に近いほど評価が良く、逆に-2.00点に近いほど評価が悪いことになる。

評価点を居住地区別にみると、“保健の分野”では、市全体の評価は『①ごみの回収』が1.22で最も高くなっている。『③予防接種・定期健康診断』も1.06と高く、マイナスの項目はみられない。これらは全ての地区で0.81以上となっている。一方、『④休日や夜間の急病の時の安心さ』は市全体で0.33と最も低くなっている。また、『②排水のはけぐあい』の「山田地区」のみ-0.05とマイナスになっている。

“安全の分野”では、市全体の評価は『⑤こどもが外で遊ぶときの安全性』が0.19で最も高いが、いずれも0.2未満となっており、『⑧夜道の明るさ（防犯灯）』は-0.23、『⑨まわりの道路の安全性』は-0.32と低くなっている。『⑧夜道の明るさ（防犯灯）』は「本庁地区」と「川鶴地区」以外の10地区、『⑨まわりの道路の安全性』は「川鶴地区」以外の11地区でマイナスとなっており、特に「芳野地区」はどちらも12地区で最も低くなっている。なお、「川鶴地区」は5項目全てがプラスとなっており、一方「古谷地区」は5項目全てがマイナスとなっている。

“利便の分野”では、市全体の評価は『⑩日用品・食料品等の買い物の便利さ』が0.94で最も高く、マイナスの分野はみられない。「本庁地区」は『⑩日用品・食料品等の買い物の便利さ』が1.36、『⑪通勤・通学時の便利さ』が1.02と高くなっている。一方、「芳野地区」は『⑩日用品・食料品等の買い物の便利さ』が-0.11、『⑪通勤・通学時の便利さ』が-0.75と12地区で最も低く、『⑫公園・広場等の利用のしやすさ』も「山田地区」に次いで低くなっている。『⑩日用品・食料品等の買い物の便利さ』、『⑪通勤・通学時の便利さ』、『⑫公園・広場等の利用のしやすさ』では、マイナスの地区は2～3地区であるものの、地区による差が1.4以上と大きくなっている。

“快適の分野”では、市全体の評価は『⑬プライバシーの保持』が0.85で最も高く、マイナスの分野はみられない。「川鶴地区」は4項目すべてが0.98以上となっており、12地区の中で最も高くなっている。一方、「芳野地区」は4項目すべてが最も低くなっており、『⑭周囲のにおいの状態からの快適さ』は-0.14とマイナス評価になっている。

①から⑬までの評価点の平均値である総合評価点は、すべての地区でプラスとなっており、最も評価点が高いのは「川鶴地区」で0.86、最も評価点が高いのは「芳野地区」で0.12となっている。また、評価点の差が最も大きい分野は『⑪通勤・通学時の便利さ』の1.77となっており、17項目中8項目で、1.0以上の差が生じている。

Ⅲ 調査結果の分析

単位：％

		市 全 体	本 庁 地 区	芳 野 地 区	古 谷 地 区	南 古 谷 地 区	高 階 地 区	福 原 地 区	大 東 地 区	霞 ヶ 関 地 区	川 鶴 地 区	霞 ヶ 関 北 地 区	名 細 地 区	山 田 地 区	最 高 と 最 低 の 差
保 健	①ごみの回収	1.22	1.32	1.23	1.21	1.26	0.97	1.18	1.27	1.29	1.29	1.27	1.14	1.17	0.35
	②排水のはけぐあい	0.62	1.03	0.72	0.31	0.35	0.33	0.39	0.84	0.61	1.06	0.59	0.41	-0.05	1.11
	③予防接種・定期健康診断	1.06	1.19	0.93	0.81	0.99	0.98	0.98	1.14	1.10	1.13	1.17	1.04	1.01	0.39
	④休日や夜間の急病の時の安心さ	0.33	0.47	0.18	0.16	0.41	0.26	0.32	0.39	0.19	0.43	0.33	0.07	0.46	0.39
安 全	⑤こどもが外で遊ぶときの安全性	0.19	0.19	0.33	-0.09	0.12	0.07	0.01	0.24	0.26	0.66	0.18	0.36	0.13	0.75
	⑥高齢者の外出や散歩の安全性	0.18	0.25	0.07	-0.07	0.14	0.08	-0.15	0.16	0.32	0.63	0.21	0.16	0.26	0.77
	⑦自然災害(浸水、地震、台風)からの安全性	0.10	0.40	-0.32	-0.58	-0.28	-0.14	0.06	0.49	0.19	0.79	0.06	0.05	-0.60	1.40
	⑧夜道の明るさ(防犯灯)	-0.23	0.13	-0.89	-0.69	-0.45	-0.24	-0.27	-0.20	-0.22	0.15	-0.46	-0.35	-0.53	1.04
	⑨まわりの道路の安全性	-0.32	-0.06	-0.73	-0.67	-0.37	-0.40	-0.51	-0.33	-0.46	0.35	-0.17	-0.53	-0.49	1.08
利 便	⑩日用品・食料品等の買い物の便利さ	0.94	1.36	-0.11	-0.02	1.15	0.97	0.76	0.85	1.04	1.19	1.29	0.50	0.45	1.47
	⑪通勤・通学時の便利さ	0.52	1.02	-0.75	-0.32	0.43	0.57	0.28	0.60	0.59	0.77	0.88	0.34	-0.23	1.77
	⑫公園・広場等の利用のしやすさ	0.28	0.24	-0.18	0.05	0.25	0.00	0.15	0.59	0.53	0.98	0.88	0.28	-0.44	1.42
	⑬公民館・集会場等の利用のしやすさ	0.39	0.39	0.33	0.02	0.30	0.42	0.20	0.62	0.40	0.69	0.77	0.42	0.19	0.75
快 適	⑭ばい煙・排気ガスからの快適さ	0.61	0.59	0.31	0.48	0.69	0.62	0.35	0.63	0.72	0.98	0.96	0.68	0.42	0.68
	⑮工場・車等の振動、騒音からの快適さ	0.53	0.51	0.33	0.61	0.43	0.68	0.38	0.43	0.49	1.13	0.92	0.65	0.34	0.81
	⑯周囲のにおいの状態からの快適さ	0.72	0.90	-0.14	0.40	0.53	0.80	0.48	0.73	0.64	1.19	1.13	0.96	0.52	1.33
	⑰プライバシーの保持	0.85	0.83	0.72	0.80	0.83	0.79	0.76	0.89	0.95	1.16	1.00	1.01	0.79	0.44
総合評価点		0.47	0.63	0.12	0.14	0.40	0.40	0.32	0.55	0.51	0.86	0.65	0.42	0.20	0.74

※ は、評価点の最高値、 は、評価点の最低値

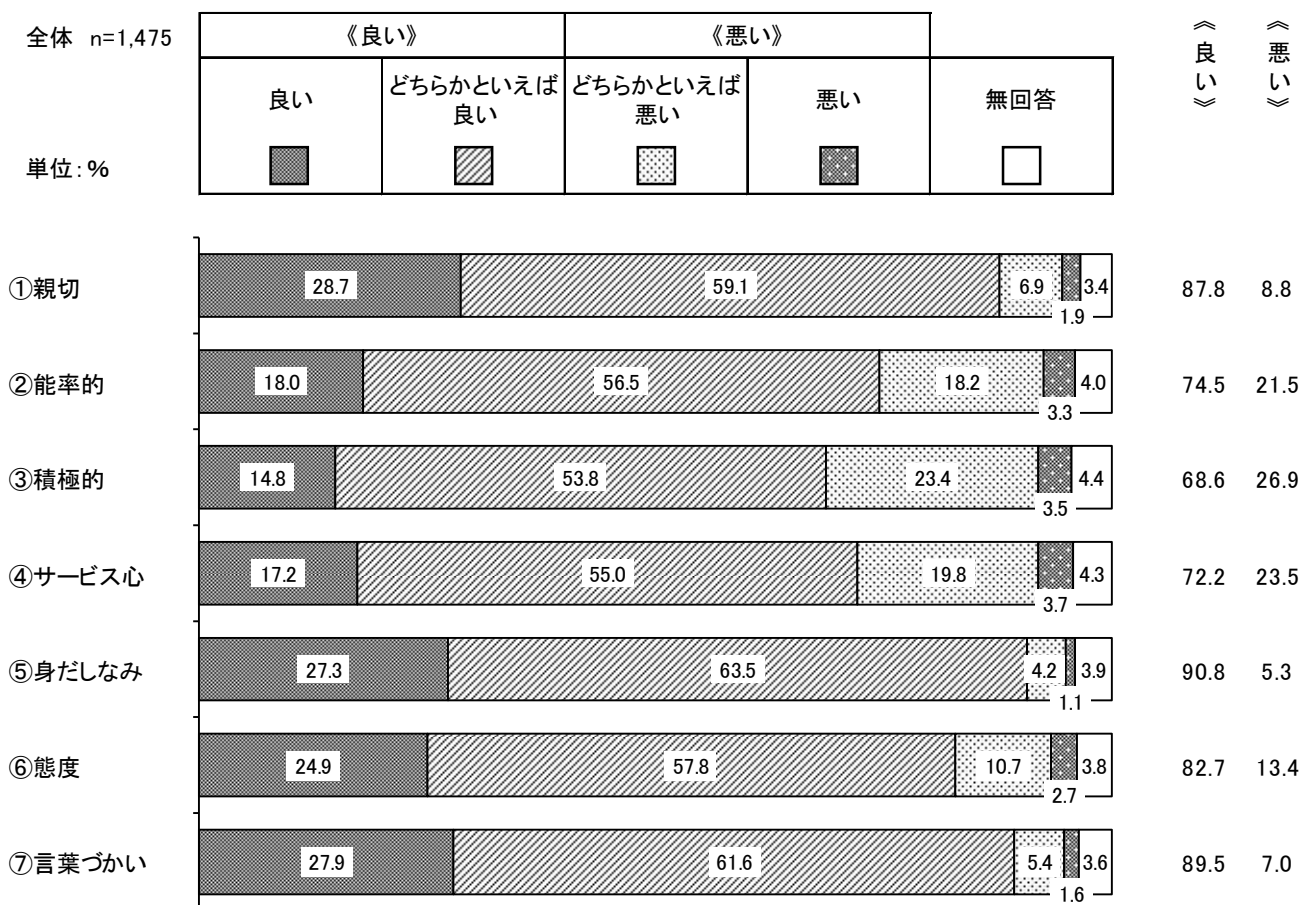
※ 総合評価点は、各項目の評価点の平均値

(11) 市職員へのイメージ

◇ 《良い》:「身だしなみ」が 90.8 %

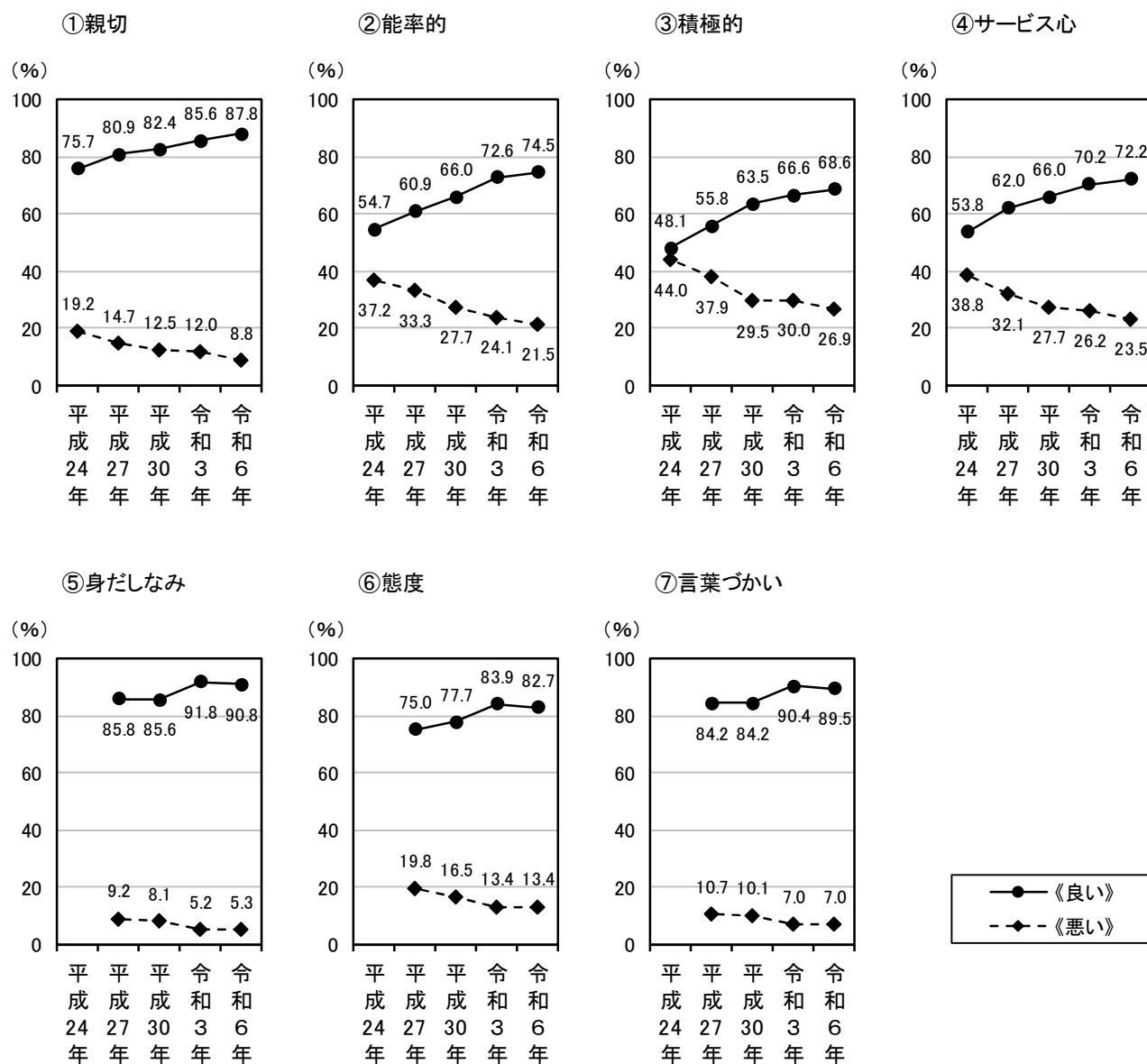
問 59 市役所職員のイメージについてどう思いますか。それぞれのイメージについて評価してください。※①から⑦のそれぞれに回答してください。(それぞれ1つのみ)

市職員へのイメージについて、「良い」、「どちらかといえば良い」の合計値《良い》は、『⑤身だしなみ』が 90.8%で最も高く、次いで『⑦言葉づかい』が 89.5%、『①親切』が 87.8%となっている。一方で、「どちらかといえば悪い」、「悪い」の合計値《悪い》は、『③積極的』が 26.9%で最も高く、次いで『④サービス心』が 23.5%、『②能率的』が 21.5%となっている。



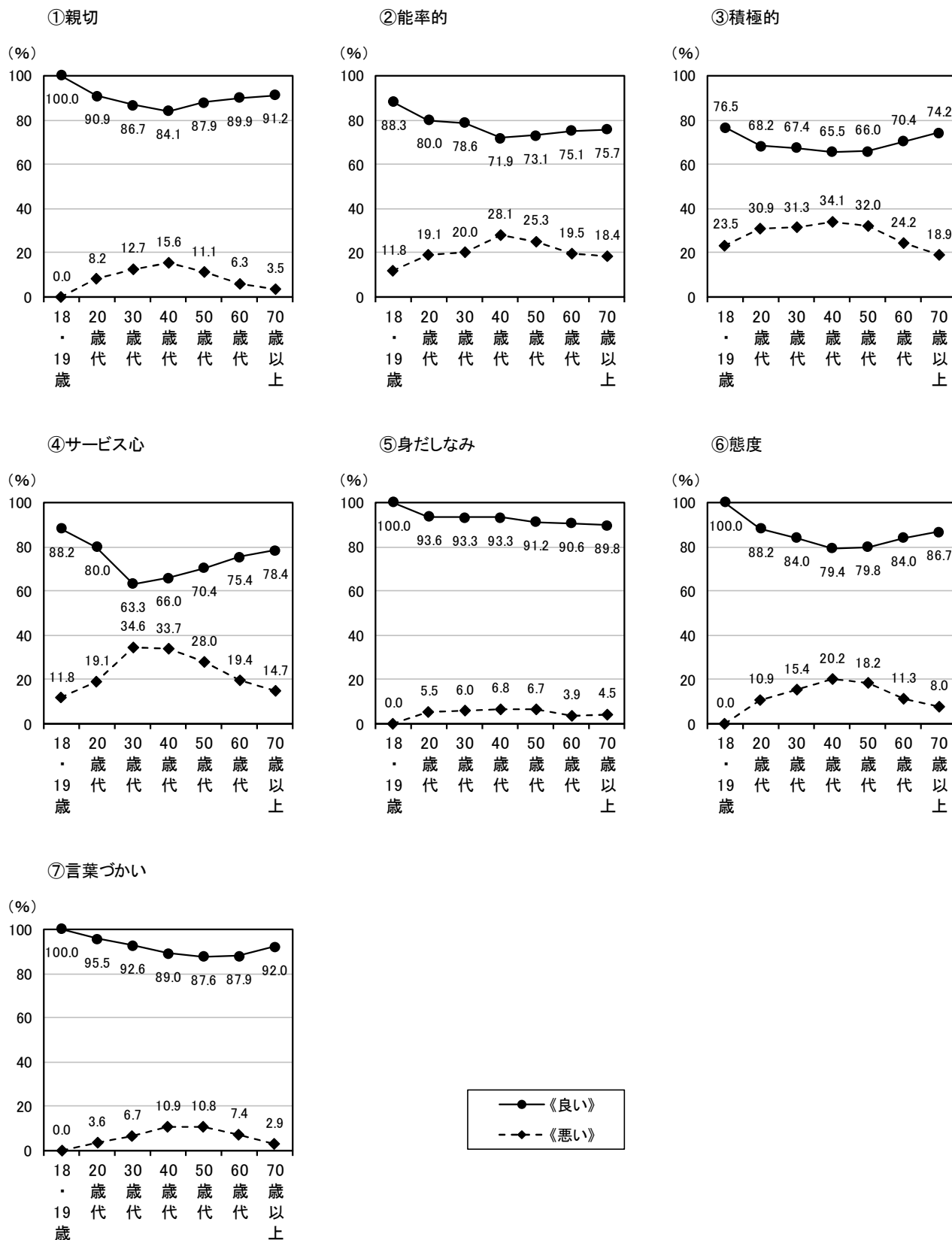
■ 時系列での比較

時系列でみると、『①親切』、『②能率的』、『③積極的』、『④サービス心』については、『良い』が増加、『悪い』が減少する傾向が続いている。『⑤身だしなみ』、『⑥態度』、『⑦言葉づかい』については、前回調査より『良い』が減少しているものの、いずれも平成27年度に比べ5ポイント以上高くなっている。



■ 年代別

年代別でみると、『①親切』、『②能率的』、『③積極的』、『⑥態度』は、40 歳代で《良い》が最も低く、《悪い》が最も高くなっている。『④サービス心』は年代による評価の差が大きく、《良い》が最も低い30 歳代と20 歳代で16.7 ポイントの差が生じている。一方、『⑤身だしなみ』は、年代が上がるにつれ《良い》がやや減少するものの、おおむね横ばいとなっている。



(12) 行財政改革と行政サービスのあり方

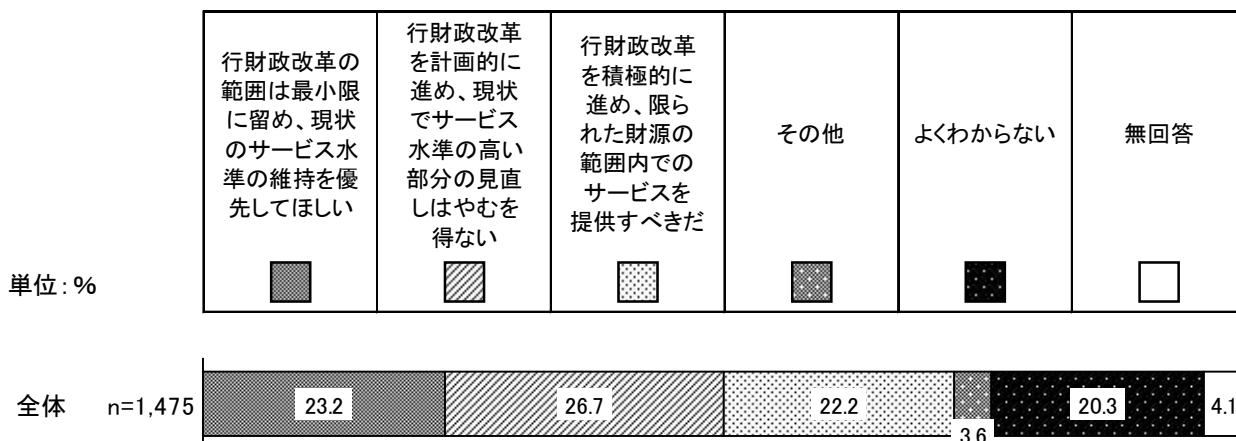
◇「行財政改革を計画的に進め、現状でサービス水準の高い部分の見直しはやむを得ない」が 26.7%

問 60 持続可能な行財政運営を行うため、行財政改革と行政サービスのあり方について、どのようにお考えですか。（1つのみ）

【参考】川越市の財政状況について

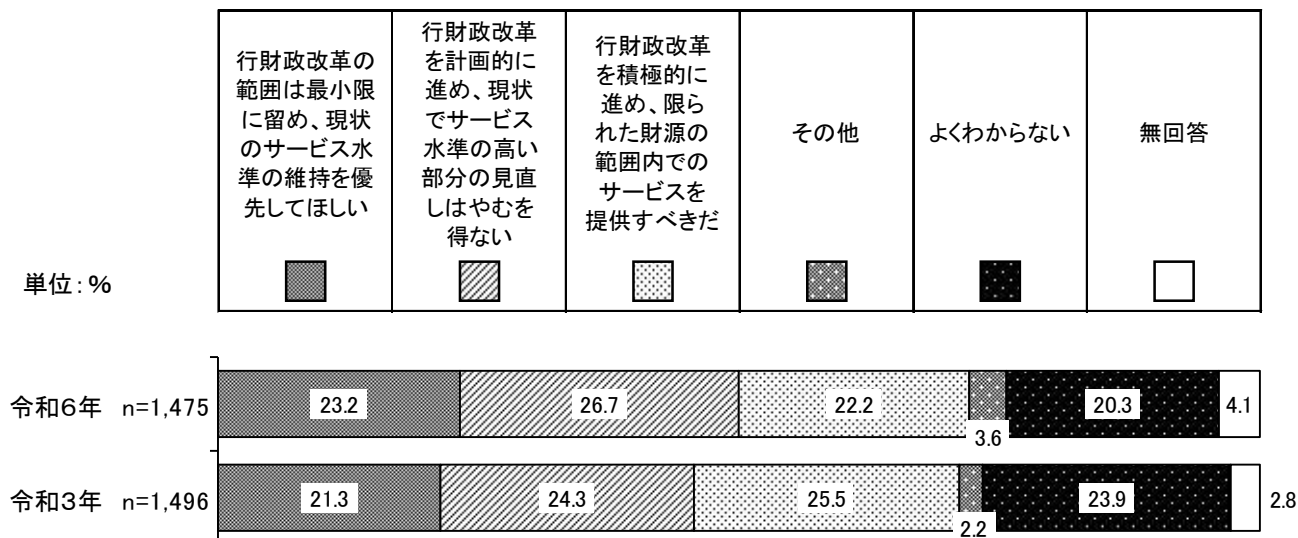
本市は県内の自治体と比べて経常的な経費の割合が高く、将来の備えである財政調整基金残高（市の貯金にあたるもの）が十分ではありません。少子高齢化の進行などにより支出の増や収入の減が見込まれる中、このままでは行政サービスの水準を維持することが難しくなると予測されます。

行財政改革と行政サービスのあり方については、「行財政改革を計画的に進め、現状でサービス水準の高い部分の見直しはやむを得ない」が 26.7%で最も高く、次いで「行財政改革の範囲は最小限に留め、現状のサービス水準の維持を優先してほしい」が 23.2%、「行財政改革を積極的に進め、限られた財源の範囲内でのサービスを提供すべきだ」が 22.2%となっている。



■ 時系列での比較

時系列でみると、「行財政改革を積極的に進め、限られた財源の範囲内でのサービスを提供すべきだ」は前回調査と比べ 3.3 ポイント減少している。

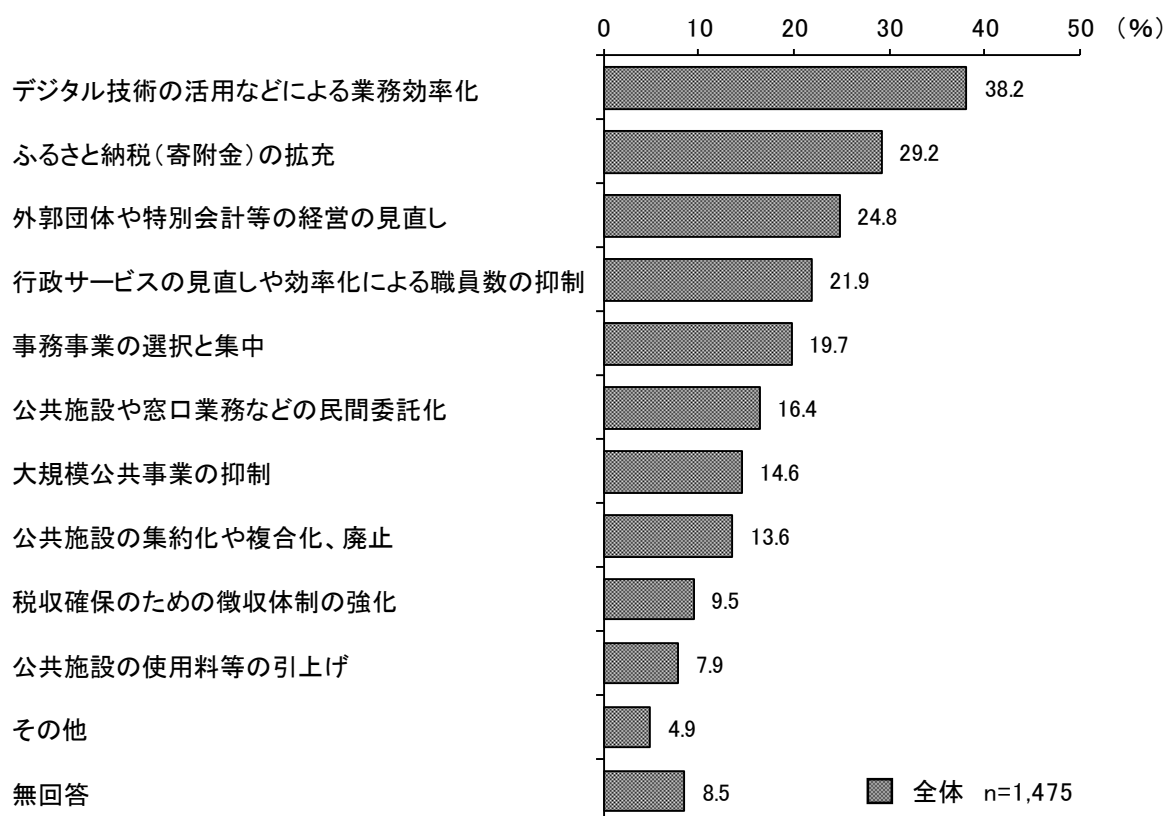


(13) 行財政改革の推進のために必要な取組

◇「デジタル技術の活用などによる業務効率化」が 38.2%

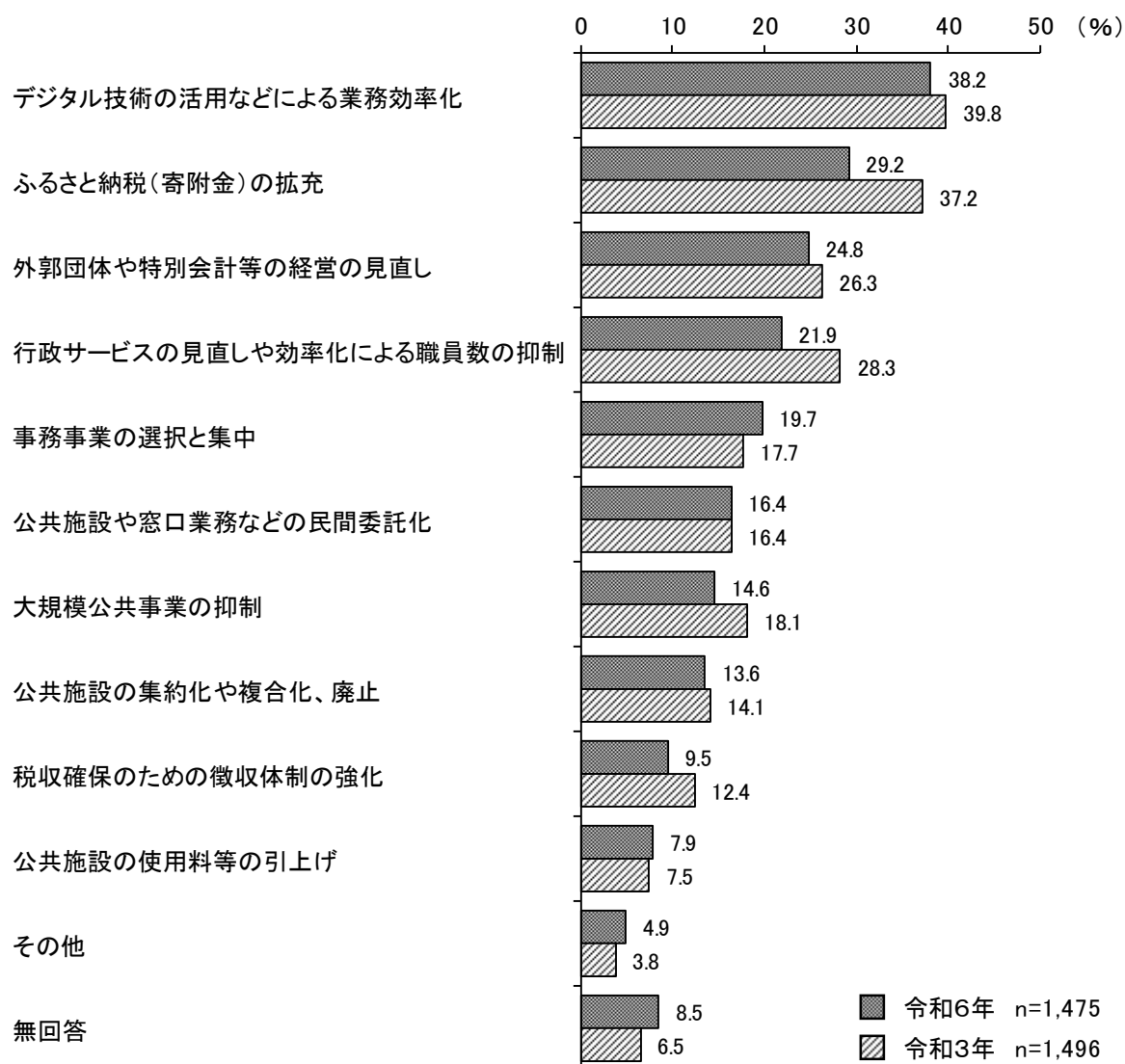
問 61 川越市が行財政改革を推進する上で、あなたが重点的に取り組む必要があると思うものは何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。（3つまで）

行財政改革の推進のために必要な取組については、「デジタル技術の活用などによる業務効率化」が 38.2%で最も高く、次いで「ふるさと納税（寄附金）の拡充」が 29.2%、「外郭団体や特別会計等の経営の見直し」が 24.8%、「行政サービスの見直しや効率化による職員数の抑制」が 21.9%となっている。



■ 時系列での比較

時系列でみると、上位4項目は前回調査より減少し、「ふるさと納税（寄附金）の拡充」は8.0ポイント、「行政サービスの見直しや効率化による職員数の抑制」は6.4ポイント減少している。「大規模公共事業の抑制」も前回調査より3.5ポイント減少している。



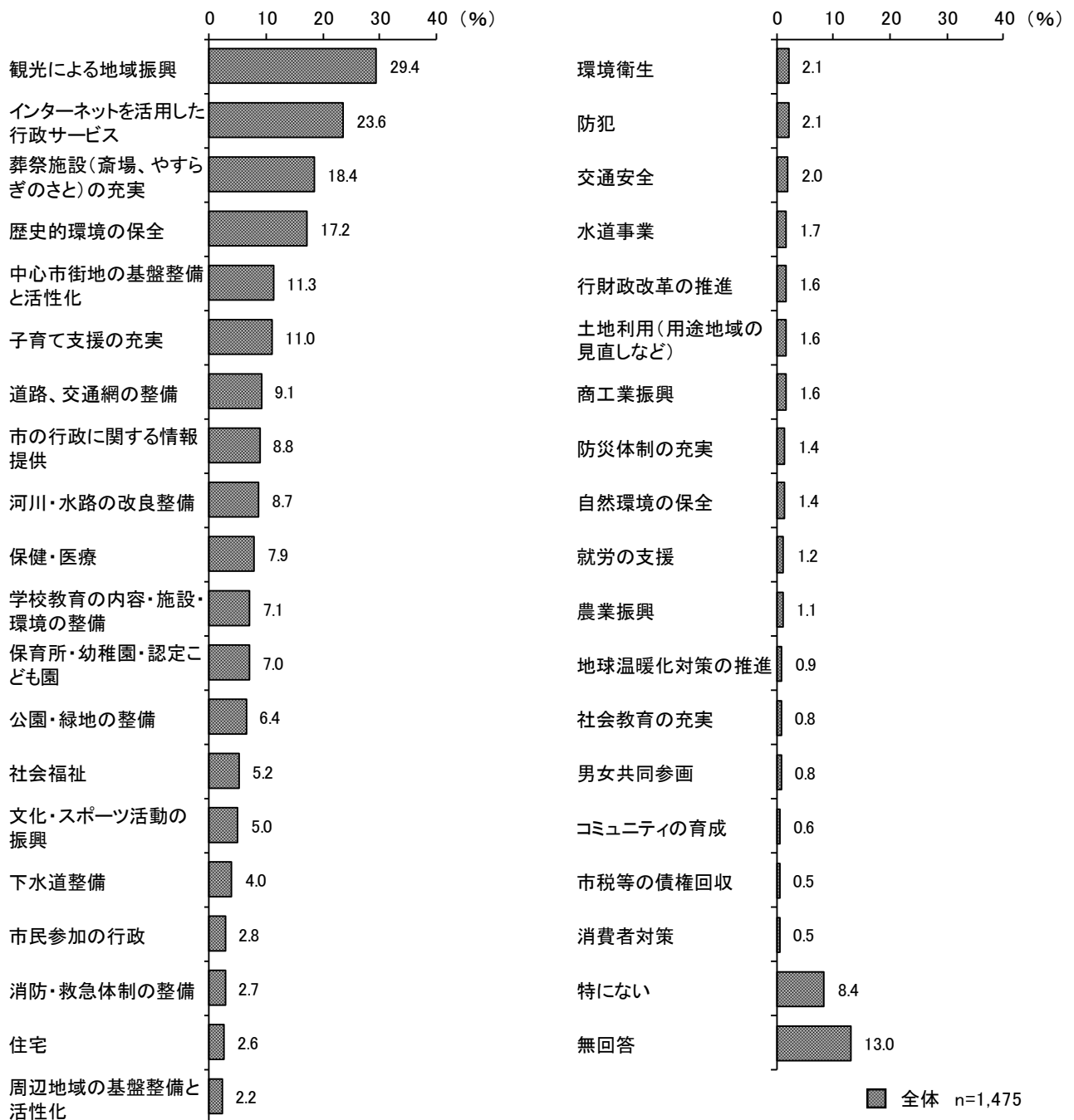
(14) よくなってきた施策／力を入れるべき施策

◇よくなってきた施策：「観光による地域振興」が 29.4%
力を入れるべき施策：「道路、交通網の整備」が 20.7%

問 62 市政全般について、「よくなってきた施策」、また、「力を入れるべき施策」をそれぞれ3つずつ選んで回答欄に番号を記入してください。

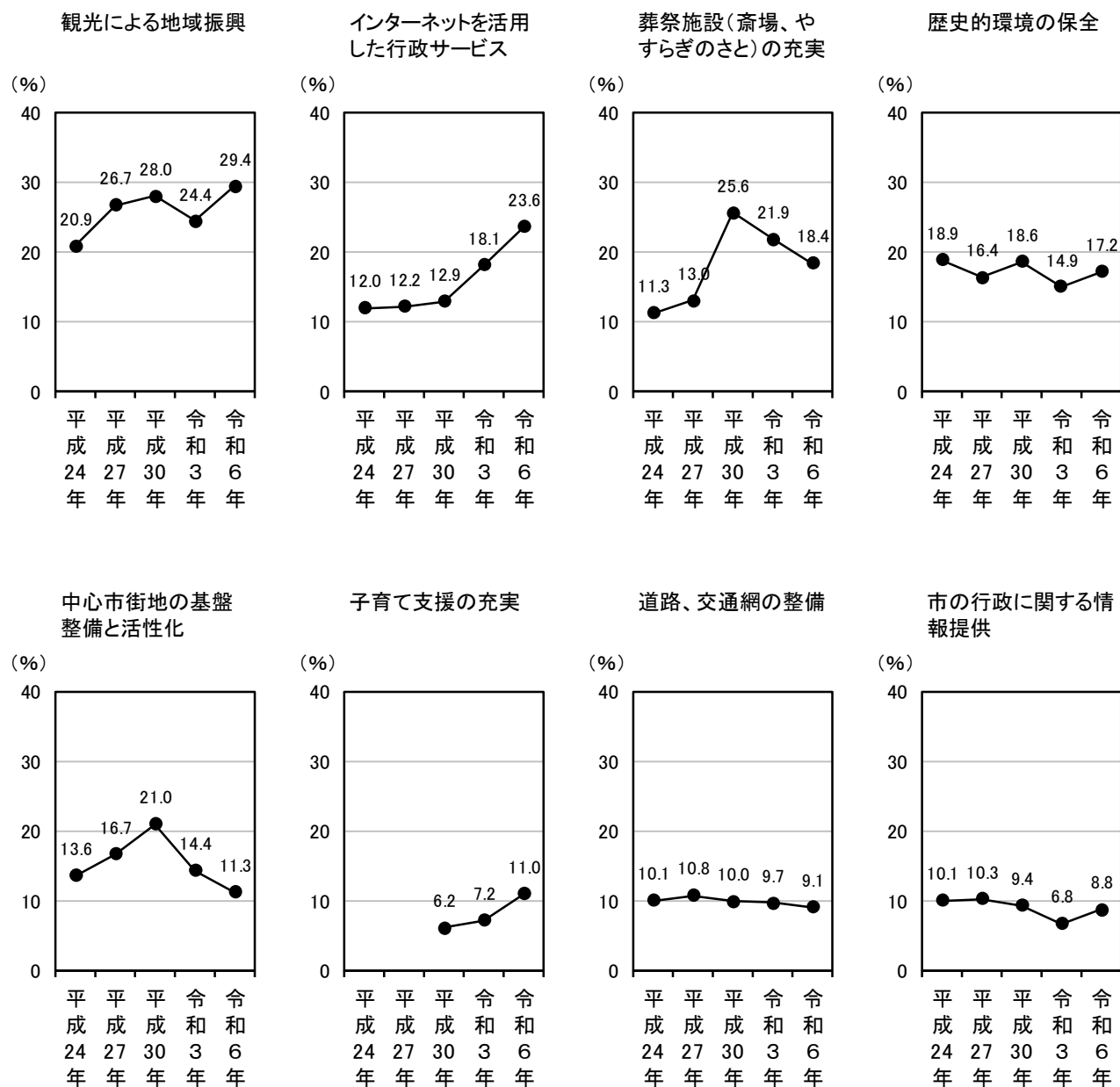
①よくなってきた施策

よくなってきた施策については、「観光による地域振興」が 29.4%で最も高く、次いで「インターネットを活用した行政サービス」が 23.6%、「葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実」が 18.4%、「歴史的環境の保全」が 17.2%となっている。



■ 時系列での比較（上位8項目）

上位8項目を時系列でみると、「インターネットを活用した行政サービス」、「子育て支援の充実」は増加傾向が続いており、「観光による地域振興」も前回調査より 5.0 ポイント増加している。一方、「葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実」、「中心市街地の基盤整備と活性化」は平成 30 年度以降減少傾向となっている。



■ 居住地区別（上位5項目）

上位5項目を居住地区別でみると、「観光による地域振興」は12地区中8地区で1位となっており、『霞ヶ関北地区』は4割と高くなっている。また、「インターネットを活用した行政サービス」は『大東地区』、『霞ヶ関地区』、『山田地区』の3地区、「葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実」は『芳野地区』、『古谷地区』の2地区で1位となっている。

属性 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
全体 n=1,475	観光による地域振興 29.4%	インターネットを活用した行政サービス 23.6%	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実 18.4%	歴史的環境の保全 17.2%	中心市街地の基盤整備と活性化 11.3%
【居住地区別】					
本庁地区 n=330	観光による地域振興 34.2%	歴史的環境の保全 25.8%	インターネットを活用した行政サービス 23.0%	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実 19.4%	中心市街地の基盤整備と活性化 13.9%
芳野地区 n=44	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実 29.5%	観光による地域振興 22.7%	インターネットを活用した行政サービス 18.2%	中心市街地の基盤整備と活性化 河川・水路の改良整備 保健・医療 11.4%	
古谷地区 n=59	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実 27.1%	観光による地域振興 23.7%	インターネットを活用した行政サービス 22.0%	歴史的環境の保全 15.3%	中心市街地の基盤整備と活性化 11.9%
南古谷地区 n=131	観光による地域振興 34.4%	インターネットを活用した行政サービス 25.2%	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実 21.4%	子育て支援の充実 14.5%	保育所・幼稚園・認定こども園 13.7%
高階地区 n=157	観光による地域振興 24.8%	インターネットを活用した行政サービス 24.2%	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実 16.6%	子育て支援の充実 15.9%	歴史的環境の保全 15.9%
福原地区 n=94	観光による地域振興 34.0%	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実 23.4%	インターネットを活用した行政サービス 22.3%	歴史的環境の保全 16.0%	子育て支援の充実 河川・水路の改良整備 12.8%
大東地区 n=138	インターネットを活用した行政サービス 26.8%	観光による地域振興 25.4%	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実 18.8%	中心市街地の基盤整備と活性化 道路、交通網の整備 14.5%	
霞ヶ関地区 n=163	インターネットを活用した行政サービス 観光による地域振興 28.2%		歴史的環境の保全 15.3%	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実 13.5%	中心市街地の基盤整備と活性化 11.7%
川鶴地区 n=71	観光による地域振興 36.6%	インターネットを活用した行政サービス 19.7%	道路、交通網の整備 19.7%	歴史的環境の保全 公園・緑地の整備 16.9%	
霞ヶ関北地区 n=52	観光による地域振興 40.4%	インターネットを活用した行政サービス 26.9%	歴史的環境の保全 21.2%	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実 17.3%	河川・水路の改良整備 15.4%
名細地区 n=96	観光による地域振興 33.3%	インターネットを活用した行政サービス 21.9%	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実 18.8%	歴史的環境の保全 15.6%	市の行政に関する情報提供 13.5%
山田地区 n=77	インターネットを活用した行政サービス 23.4%	観光による地域振興 16.9%	保健・医療 歴史的環境の保全 15.6%		葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実 14.3%

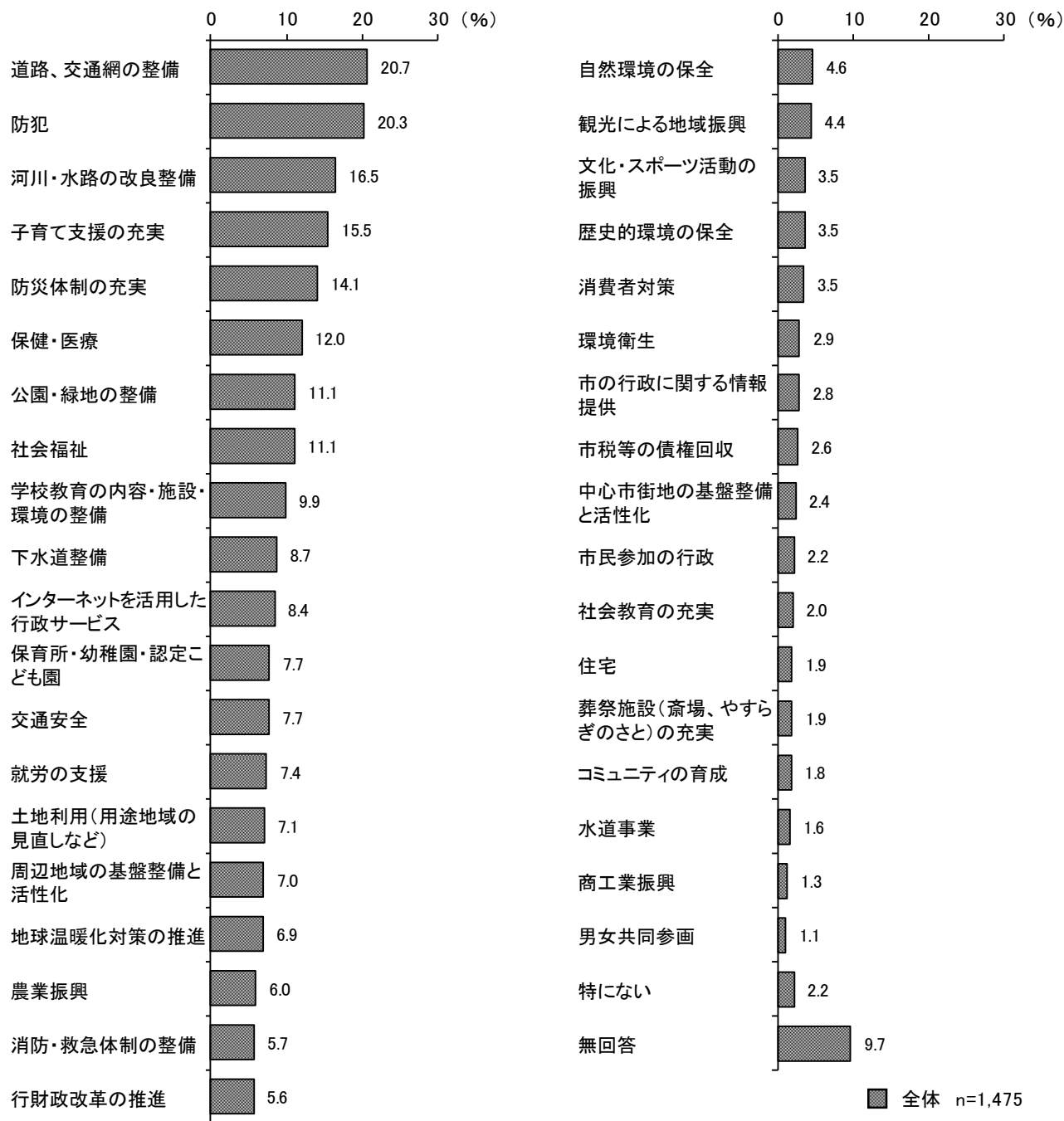
■ 性別・年代別（上位5項目）

上位5項目を性別・年代別でみると、男女とも「観光による地域振興」が最も高く、男性20歳代、30歳代、50歳代以上、女性20歳代、40～60歳代で1位となっている。また、「インターネットを活用した行政サービス」は男性40歳代、女性30歳代、「葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実」は女性70歳以上で1位となっている。

属性	順位	1位	2位	3位	4位	5位
全体 n=1,475		観光による地域振興	インターネットを活用した行政サービス	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実	歴史的環境の保全	中心市街地の基盤整備と活性化
		29.4%	23.6%	18.4%	17.2%	11.3%
【性別・年代別】						
男性 n=597		観光による地域振興	インターネットを活用した行政サービス	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実	歴史的環境の保全	中心市街地の基盤整備と活性化
		28.6%	24.0%	17.4%	17.3%	11.7%
男性18・19歳 n=12		インターネットを活用した行政サービス	観光による地域振興	歴史的環境の保全	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実	子育て支援の充実
		41.7%	33.3%	33.3%	25.0%	16.7%
男性20歳代 n=50		観光による地域振興	インターネットを活用した行政サービス	歴史的環境の保全	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実	市の行政に関する情報提供 道路、交通網の整備
		28.0%	22.0%	22.0%	18.0%	14.0%
男性30歳代 n=53		観光による地域振興	インターネットを活用した行政サービス	歴史的環境の保全	保育所・幼稚園・認定こども園 道路、交通網の整備 住宅	
		34.0%	22.6%	20.8%		9.4%
男性40歳代 n=83		インターネットを活用した行政サービス	歴史的環境の保全	観光による地域振興	中心市街地の基盤整備と活性化 葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実	
		34.9%	22.9%	21.7%		16.9%
男性50歳代 n=120		観光による地域振興	インターネットを活用した行政サービス	歴史的環境の保全 葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実		道路、交通網の整備
		35.8%	25.0%		19.2%	15.0%
男性60歳代 n=113		観光による地域振興	インターネットを活用した行政サービス	中心市街地の基盤整備と活性化	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実	歴史的環境の保全
		31.0%	27.4%	19.5%	15.9%	14.2%
男性70歳以上 n=166		観光による地域振興	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実	インターネットを活用した行政サービス	保健・医療	市の行政に関する情報提供
		23.5%	19.9%	15.1%	14.5%	13.3%
女性 n=829		観光による地域振興	インターネットを活用した行政サービス	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実	歴史的環境の保全	子育て支援の充実
		31.2%	23.8%	19.7%	17.4%	14.1%
女性18・19歳 n=5		歴史的環境の保全 観光による地域振興		学校教育の内容・施設・環境の整備	市の行政に関する情報提供 インターネットを活用した行政サービス	
			60.0%	40.0%		20.0%
女性20歳代 n=57		観光による地域振興	インターネットを活用した行政サービス	歴史的環境の保全 学校教育の内容・施設・環境の整備		葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実
		38.6%	19.3%		17.5%	12.3%
女性30歳代 n=94		インターネットを活用した行政サービス	観光による地域振興	子育て支援の充実	保育所・幼稚園・認定こども園 歴史的環境の保全	
		36.2%	34.0%	17.0%		14.9%
女性40歳代 n=148		観光による地域振興	インターネットを活用した行政サービス	歴史的環境の保全	子育て支援の充実	学校教育の内容・施設・環境の整備
		40.5%	30.4%	21.6%	20.9%	18.2%
女性50歳代 n=174		観光による地域振興	インターネットを活用した行政サービス	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実	歴史的環境の保全	子育て支援の充実
		32.2%	30.5%	24.7%	20.1%	16.7%
女性60歳代 n=141		観光による地域振興	葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実	インターネットを活用した行政サービス	歴史的環境の保全	中心市街地の基盤整備と活性化
		31.2%	23.4%	20.6%	17.7%	13.5%
女性70歳以上 n=209		葬祭施設（斎場、やすらぎのさと）の充実	観光による地域振興	市の行政に関する情報提供	歴史的環境の保全	インターネットを活用した行政サービス
		24.4%	20.1%	13.4%	12.0%	11.5%

②力を入れるべき施策

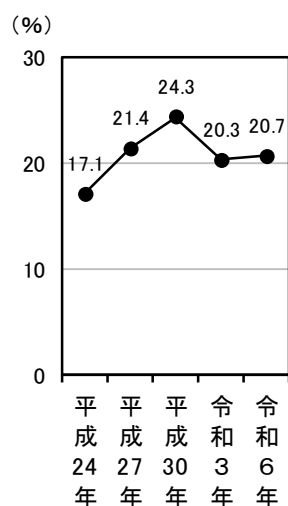
力を入れるべき施策については、「道路、交通網の整備」が 20.7%で最も高く、次いで「防犯」が 20.3%、「河川・水路の改良整備」が 16.5%、「子育て支援の充実」が 15.5%となっている。



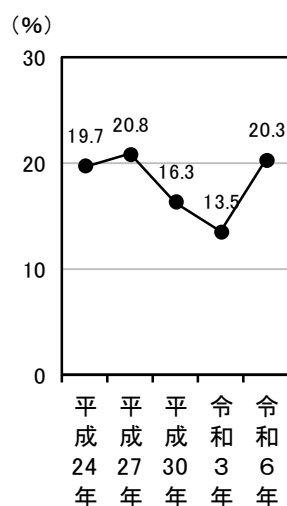
■ 時系列での比較（上位8項目）

上位8項目を時系列でみると、「子育て支援の充実」、「保健・医療」、「公園・緑地の整備」は前回調査から減少している。それ以外の5項目は前回調査を上回り、「防犯」は6.8ポイント増加し、減少傾向から増加に転じている。「河川・水路の改良整備」、「防災体制の充実」も2ポイント以上増加している。

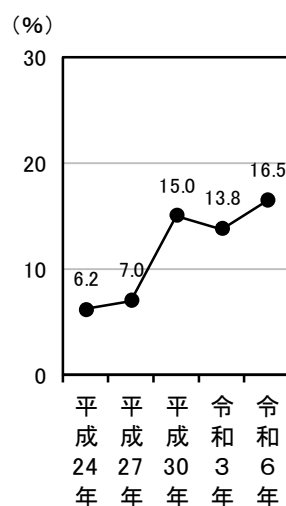
道路、交通網の整備



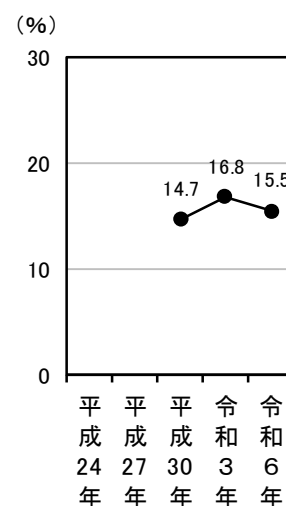
防犯



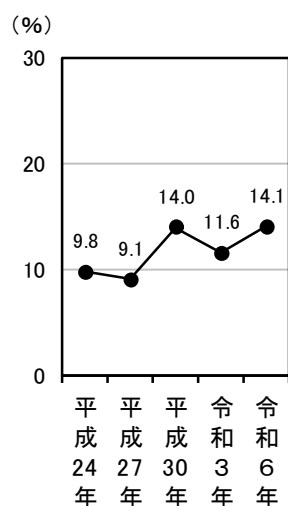
河川・水路の改良整備



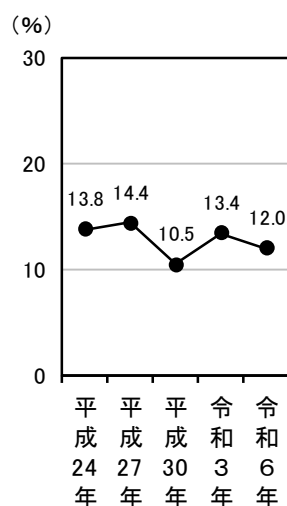
子育て支援の充実



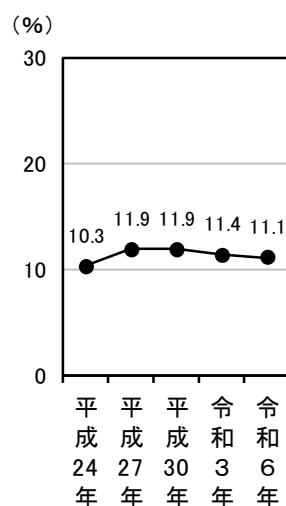
防災体制の充実



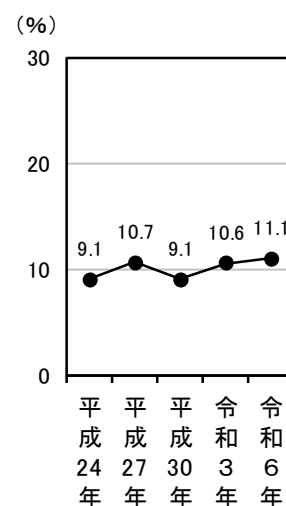
保健・医療



公園・緑地の整備



社会福祉



■ 居住地区別（上位5項目）

上位5項目を居住地区別でみると、「道路、交通網の整備」は『本庁地区』、『芳野地区』、『南古谷地区』、『福原地区』、『名細地区』の5地区で1位となっている。「防犯」は『古谷地区』、『高階地区』、『大東地区』、『霞ヶ関地区』、『霞ヶ関北地区』の5地区で1位となっている、また、『川鶴地区』は「子育て支援の充実」、「山田地区」は『河川・水路の改良整備』が1位となっている。

属性 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
全体 n=1,475	道路、交通網の整備 20.7%	防犯 20.3%	河川・水路の改良整備 16.5%	子育て支援の充実 15.5%	防災体制の充実 14.1%
【居住地区別】					
本庁地区 n=330	道路、交通網の整備 19.7%	防犯 18.5%	河川・水路の改良整備 16.4%	公園・緑地の整備 15.2%	子育て支援の充実 14.5%
芳野地区 n=44	道路、交通網の整備 27.3%	河川・水路の改良整備 20.5%	防災体制の充実 18.2%	子育て支援の充実 農業振興 防犯	15.9%
古谷地区 n=59	防犯 18.6%	学校教育の内容・施設・環境の整備 道路、交通網の整備 下水道整備			子育て支援の充実 農業振興 河川・水路の改良整備 13.6%
南古谷地区 n=131	道路、交通網の整備 22.9%	河川・水路の改良整備 22.1%	防犯 19.1%	子育て支援の充実 防災体制の充実	14.5%
高階地区 n=157	防犯 25.5%	道路、交通網の整備 防災体制の充実	17.8%	子育て支援の充実 14.6%	公園・緑地の整備 14.0%
福原地区 n=94	道路、交通網の整備 25.5%	子育て支援の充実 18.1%	河川・水路の改良整備 16.0%	下水道整備 14.9%	防犯 13.8%
大東地区 n=138	防犯 21.7%	道路、交通網の整備 20.3%	子育て支援の充実 16.7%	学校教育の内容・施設・環境の整備 13.8%	防災体制の充実 13.0%
霞ヶ関地区 n=163	防犯 27.0%	道路、交通網の整備 25.2%	河川・水路の改良整備 16.6%	子育て支援の充実 14.7%	保健・医療 防災体制の充実 12.9%
川鶴地区 n=71	子育て支援の充実 22.5%	社会福祉 防犯	21.1%	道路、交通網の整備 16.9%	防災体制の充実 15.5%
霞ヶ関北地区 n=52	防犯 30.8%	河川・水路の改良整備 防災体制の充実	19.2%	道路、交通網の整備 17.3%	土地利用（用途地域の 見直しなど） 交通安全 15.4%
名細地区 n=96	道路、交通網の整備 21.9%	防犯 20.8%	子育て支援の充実 河川・水路の改良整備	17.7%	社会福祉 14.6%
山田地区 n=77	河川・水路の改良整備 29.9%	子育て支援の充実 20.8%	道路、交通網の整備 19.5%	下水道整備 18.2%	保健・医療 15.6%

■ 性別・年代別（上位5項目）

上位5項目を性別・年代別でみると、男女とも「道路、交通網の整備」が最も高く、男性20歳代、40歳代、50歳代、女性20歳代、70歳以上で1位となっている。「防犯」、「子育て支援の充実」、「河川・水路の改良整備」も複数の年代で1位となっている。

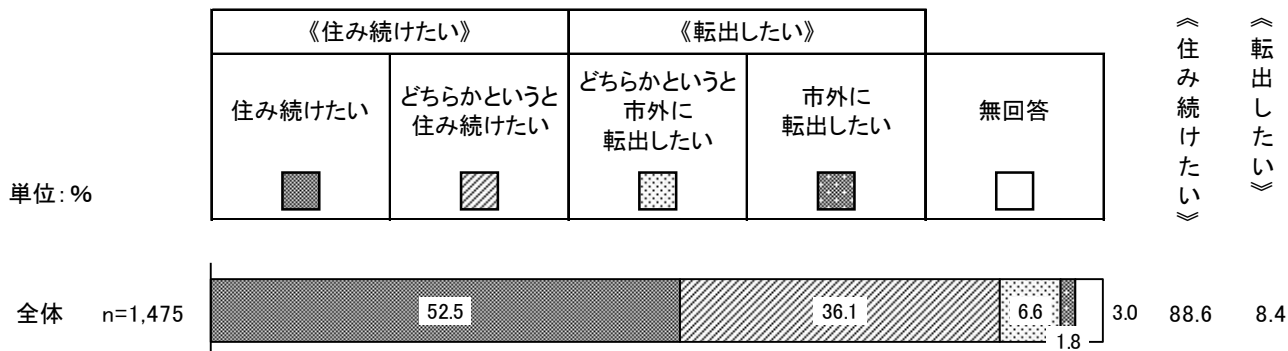
属性	順位	1位	2位	3位	4位	5位
全体 n=1,475		道路、交通網の整備	防犯	河川・水路の改良整備	子育て支援の充実	防災体制の充実
		20.7%	20.3%	16.5%	15.5%	14.1%
【性別・年代別】						
男性 n=597		道路、交通網の整備	防犯	子育て支援の充実	河川・水路の改良整備	防災体制の充実
		19.1%	18.9%	16.4%	15.6%	13.1%
男性18・19歳 n=12		学校教育の内容・施設・環境の整備	インターネットを活用した行政サービス	就労の支援	子育て支援の充実 社会福祉 土地利用（用途地域の見直しなど） 道路、交通網の整備	
		33.3%	25.0%	25.0%		16.7%
男性20歳代 n=50		道路、交通網の整備	インターネットを活用した行政サービス	子育て支援の充実 公園・緑地の整備		保育所・幼稚園・認定こども園 防犯
		28.0%	26.0%		22.0%	14.0%
男性30歳代 n=53		子育て支援の充実	防犯	道路、交通網の整備	保育所・幼稚園・認定こども園 交通安全	
		39.6%	22.6%	18.9%		17.0%
男性40歳代 n=83		道路、交通網の整備	子育て支援の充実	防犯	交通安全	防災体制の充実
		33.7%	24.1%	22.9%	18.1%	16.9%
男性50歳代 n=120		道路、交通網の整備 防犯		保健・医療	河川・水路の改良整備	公園・緑地の整備
			18.3%	17.5%	15.0%	14.2%
男性60歳代 n=113		防犯	防災体制の充実	河川・水路の改良整備	道路、交通網の整備	社会福祉
		23.0%	19.5%	18.6%	16.8%	15.0%
男性70歳以上 n=166		河川・水路の改良整備	防犯	下水道整備	保健・医療	子育て支援の充実 防災体制の充実
		18.7%	15.7%	13.3%	12.7%	12.0%
女性 n=829		道路、交通網の整備	防犯	河川・水路の改良整備	子育て支援の充実 防災体制の充実	
		22.1%	21.5%	17.5%		15.2%
女性18・19歳 n=5		公園・緑地の整備 就労の支援 防犯			保健・医療 学校教育の内容・施設・環境の整備 土地利用（用途地域の見直しなど） 道路、交通網の整備 自然環境の保全 消費者対策	
					40.0%	20.0%
女性20歳代 n=57		道路、交通網の整備	子育て支援の充実	防犯	保育所・幼稚園・認定こども園 学校教育の内容・施設・環境の整備 交通安全	
		36.8%	24.6%	19.3%		15.8%
女性30歳代 n=94		子育て支援の充実	防犯	学校教育の内容・施設・環境の整備	保育所・幼稚園・認定こども園	道路、交通網の整備
		35.1%	27.7%	21.3%	20.2%	16.0%
女性40歳代 n=148		子育て支援の充実	道路、交通網の整備	学校教育の内容・施設・環境の整備 防犯		河川・水路の改良整備
		28.4%	24.3%		22.3%	16.2%
女性50歳代 n=174		防犯	道路、交通網の整備	河川・水路の改良整備	保健・医療	社会福祉 防災体制の充実
		27.0%	22.4%	19.0%	18.4%	15.5%
女性60歳代 n=141		河川・水路の改良整備	道路、交通網の整備	防災体制の充実	防犯	保健・医療
		29.1%	21.3%	18.4%	17.7%	14.9%
女性70歳以上 n=209		道路、交通網の整備	防災体制の充実	社会福祉	防犯	地球温暖化対策の推進 河川・水路の改良整備
		19.1%	17.2%	16.7%	16.3%	14.8%

(15) 川越市への定住意向

◇ 《住み続けたい》が 88.6%

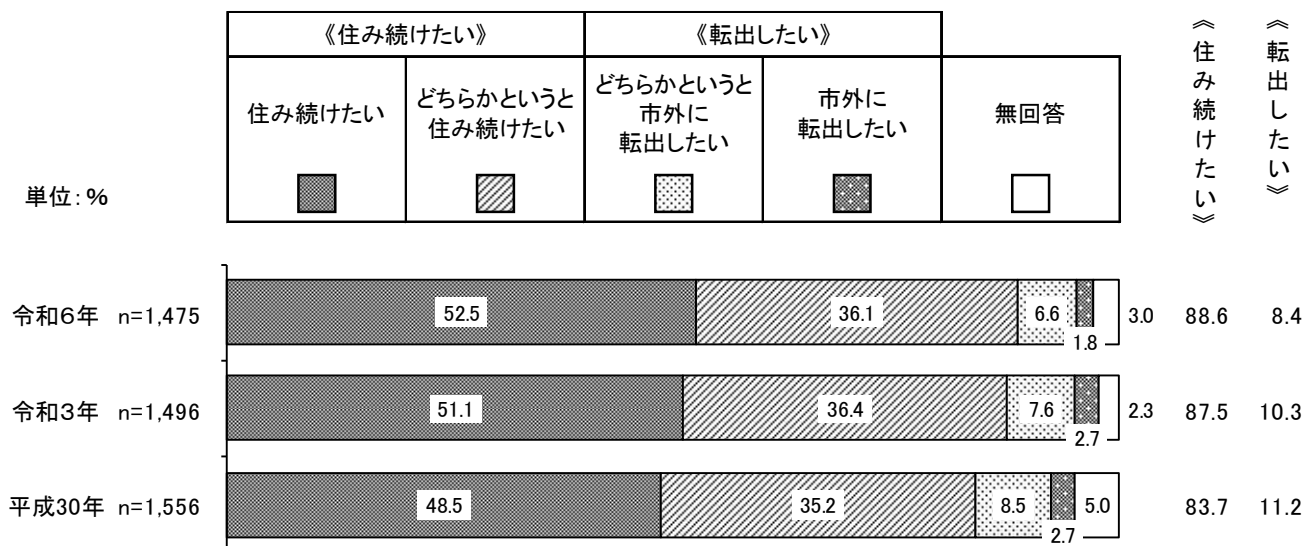
問 63 あなたは、これからもずっと川越市に住み続けたいと思いますか。それともよそに移りたいと思いますか。（1つのみ）

川越市への定住意向については、「住み続けたい」、「どちらかというに住み続けたい」の合計値《住み続けたい》が 88.6%である一方、「どちらかというに市外に転出したい」、「市外に転出したい」の合計値《転出したい》は 8.4%と、《住み続けたい》が 80.2 ポイント上回っている。



■ 時系列での比較

時系列でみると、《住み続けたい》は前回調査より 1.1 ポイント、平成 30 年度より 4.9 ポイント増加し、増加傾向となっている。一方、《転出したい》は前回調査より 1.9 ポイント減少している。



■ 性別・年代別

性別・年代別でみると、《住み続けたい》は女性 20 歳代を除き 8 割以上となっており、男性 30 歳代、50 歳代以上、女性 50 歳代以上は 9 割台と高くなっている、一方、《転出したい》は女性 20 歳代が 2 割を超え最も高くなっている。

単位：%	《住み続けたい》		《転出したい》		無回答	《住み続けたい》 合計値	《転出したい》 合計値
	住み続けたい	どちらかという と住み続けたい	どちらかという と市外に 転出したい	市外に 転出したい			
全体 n=1,475	52.5	36.1	6.6	1.8	3.0	88.6	8.4

【性別・年代別】

男性 n=597	57.6	34.3	5.2	1.7	1.2	91.9	6.9
男性18・19歳 n=12	25.0	58.3	8.3	8.3	0.0	83.3	16.6
男性20歳代 n=50	50.0	34.0	14.0	0.0	2.0	84.0	14.0
男性30歳代 n=53	41.5	50.9	5.7	1.9	0.0	92.4	7.6
男性40歳代 n=83	50.6	36.1	9.6	3.6	0.0	86.7	13.2
男性50歳代 n=120	50.0	42.5	5.0	2.5	0.0	92.5	7.5
男性60歳代 n=113	72.6	23.0	2.7	0.9	0.9	95.6	3.6
男性70歳以上 n=166	66.3	28.3	1.8	0.6	3.0	94.6	2.4
女性 n=829	50.9	37.9	7.8	1.9	1.4	88.8	9.7
女性18・19歳 n=5	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
女性20歳代 n=57	36.8	40.4	12.3	10.5	0.0	77.2	22.8
女性30歳代 n=94	37.2	45.7	16.0	0.0	1.1	82.9	16.0
女性40歳代 n=148	37.8	50.0	8.1	2.7	1.4	87.8	10.8
女性50歳代 n=174	50.6	40.2	8.0	1.1	0.0	90.8	9.1
女性60歳代 n=141	61.7	29.1	6.4	1.4	1.4	90.8	7.8
女性70歳以上 n=209	63.6	28.7	3.8	1.0	2.9	92.3	4.8

■ 居住地区別

居住地区別でみると、《住み続けたい》は『霞ヶ関北地区』が 98.1%で最も高く、次いで『川鶴地区』が 97.2%、『芳野地区』が 93.1%、『大東地区』と『霞ヶ関地区』が 92.0%となっている。《住み続けたい》はすべての地区で8割以上となっている。一方、《転出したい》は『福原地区』が 13.9%で最も高く、次いで『南古谷地区』が 13.7%、『高階地区』が 12.7%、『古谷地区』が 11.9%となっている。

単位：%	《住み続けたい》		《転出したい》		無回答	《住み続けたい》 合計値	《転出したい》 合計値
	住み続けたい	どちらかという と住み続けたい	どちらかという と市外に 転出したい	市外に 転出したい			
全体 n=1,475	52.5	36.1	6.6	1.8	3.0	88.6	8.4

【居住地区別】

本庁地区 n=330	56.4	35.5	4.8	2.1	1.2	91.9	6.9
芳野地区 n=44	54.5	38.6	4.5	2.3	0.0	93.1	6.8
古谷地区 n=59	62.7	23.7	10.2	1.7	1.7	86.4	11.9
南古谷地区 n=131	54.2	30.5	9.9	3.8	1.5	84.7	13.7
高階地区 n=157	45.2	39.5	12.1	0.6	2.5	84.7	12.7
福原地区 n=94	55.3	30.9	9.6	4.3	0.0	86.2	13.9
大東地区 n=138	56.5	35.5	5.1	1.4	1.4	92.0	6.5
霞ヶ関地区 n=163	55.2	36.8	5.5	1.8	0.6	92.0	7.3
川鶴地区 n=71	46.5	50.7	2.8	0.0	0.0	97.2	2.8
霞ヶ関北地区 n=52	55.8	42.3	0.0	0.0	1.9	98.1	0.0
名細地区 n=96	54.2	37.5	4.2	3.1	1.0	91.7	7.3
山田地区 n=77	51.9	36.4	10.4	0.0	1.3	88.3	10.4

(16) 住み続けたいと思う理由

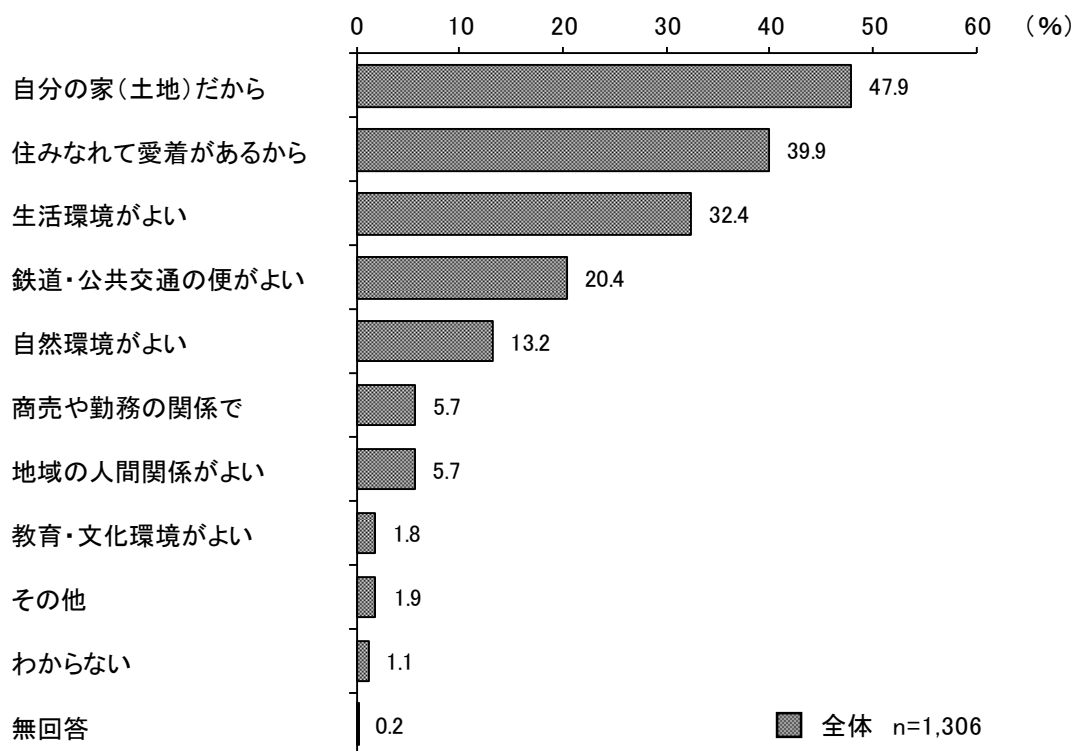
◇「自分の家（土地）だから」が47.9%

【問 63 で「住み続けたい」「どちらかというに住み続けたい」と回答した方におたずねします。】

問 63－1 川越市に住み続けたいというのは、特にどのような理由からですか。

次の中から2つ以内で選んでください。（2つまで）

住み続けたいと思う理由については、「自分の家（土地）だから」が47.9%で最も高く、次いで「住みなれて愛着があるから」が39.9%、「生活環境がよい」が32.4%、「鉄道・公共交通の便がよい」が20.4%となっている。



■ 性別・年代別（上位6項目）

上位6項目を性別・年代別でみると、「自分の家（土地）だから」は男性50歳代以上、女性70歳代以上で5割台と高くなっている。また、「鉄道・公共交通の便がよい」は男性、女性とも20歳代で3割台と高くなっている。

単位：%	自分の家（土地） だから	住みなれて愛着が あるから	生活環境がよい	鉄道・公共交通の 便がよい	自然環境がよい	商売や勤務の関 係で
全体 n=1,306	47.9	39.9	32.4	20.4	13.2	5.7
【性別・年代別】						
男性 n=549	47.7	38.4	34.4	19.3	14.0	5.8
男性18・19歳 n=10	20.0	70.0	30.0	10.0	10.0	0.0
男性20歳代 n=42	23.8	45.2	33.3	35.7	4.8	11.9
男性30歳代 n=49	32.7	24.5	36.7	24.5	18.4	6.1
男性40歳代 n=72	41.7	38.9	31.9	13.9	15.3	8.3
男性50歳代 n=111	53.2	31.5	34.2	23.4	6.3	10.8
男性60歳代 n=108	50.0	40.7	38.0	16.7	13.0	0.9
男性70歳以上 n=157	58.0	42.0	33.1	15.3	21.0	3.2
女性 n=736	47.7	41.3	31.3	21.1	12.6	5.8
女性18・19歳 n=5	20.0	60.0	20.0	100.0	0.0	0.0
女性20歳代 n=44	29.5	43.2	18.2	31.8	13.6	13.6
女性30歳代 n=78	44.9	39.7	24.4	19.2	6.4	15.4
女性40歳代 n=130	47.7	39.2	31.5	20.0	10.8	6.9
女性50歳代 n=158	46.8	38.6	34.8	15.8	11.4	6.3
女性60歳代 n=128	49.2	47.7	32.8	21.9	5.5	1.6
女性70歳以上 n=193	53.4	40.4	33.2	21.8	22.3	2.1

■ 居住地区別（上位6項目）

上位6項目を居住地区別でみると、「自分の家（土地）だから」は12地区中10地区で1位となっている。また、『本庁地区』と『川鶴地区』は「生活環境がよい」が1位となっている。

単位：%	自分の家（土地） だから	住みなれて愛着が あるから	生活環境がよい	鉄道・公共交通の 便がよい	自然環境がよい	商売や勤務の関 係で
全体 n=1,306	47.9	39.9	32.4	20.4	13.2	5.7
【居住地区別】						
本庁地区 n=303	40.6	36.3	41.9	29.7	7.3	8.3
芳野地区 n=41	63.4	56.1	7.3	2.4	17.1	2.4
古谷地区 n=51	54.9	51.0	15.7	9.8	19.6	2.0
南古谷地区 n=111	52.3	31.5	29.7	21.6	23.4	4.5
高階地区 n=133	44.4	39.8	31.6	23.3	9.8	4.5
福原地区 n=81	55.6	38.3	18.5	27.2	11.1	7.4
大東地区 n=127	46.5	42.5	33.1	23.6	10.2	6.3
霞ヶ関地区 n=150	52.7	42.0	33.3	14.0	16.7	3.3
川鶴地区 n=69	34.8	37.7	46.4	17.4	15.9	7.2
霞ヶ関北地区 n=51	58.8	39.2	37.3	15.7	11.8	5.9
名細地区 n=88	48.9	39.8	28.4	9.1	20.5	3.4
山田地区 n=68	55.9	45.6	25.0	13.2	11.8	2.9

(17) 転出したいと思う理由

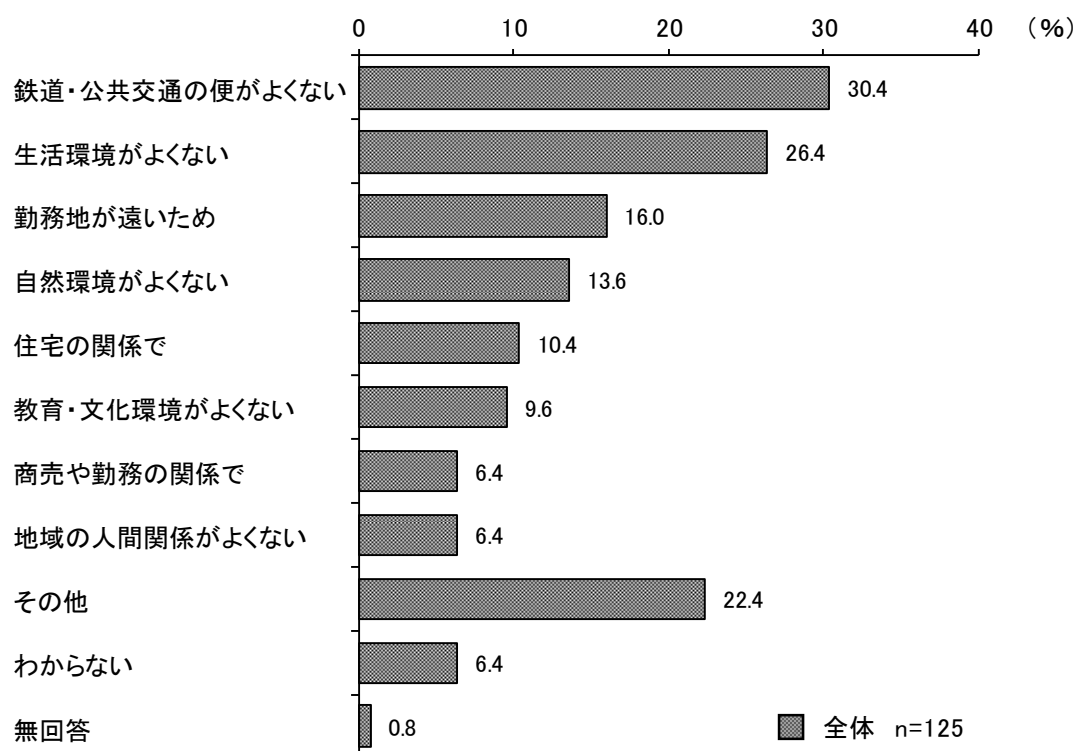
◇「鉄道・公共交通の便がよいくない」が 30.4%

【問 63 で「どちらかというとし外に転出したい」「市外に転出したい」と回答した方におたずねします。】

問 63－2 市外へ移りたいというのは、特にどのような理由からですか。

次の中から2つ以内で選んでください。(2つまで)

転出したいと思う理由については、「鉄道・公共交通の便がよいくない」が 30.4%で最も高く、次いで「生活環境がよいくない」が 26.4%、「勤務地が遠いため」が 16.0%、「自然環境がよいくない」が 13.6%となっている。

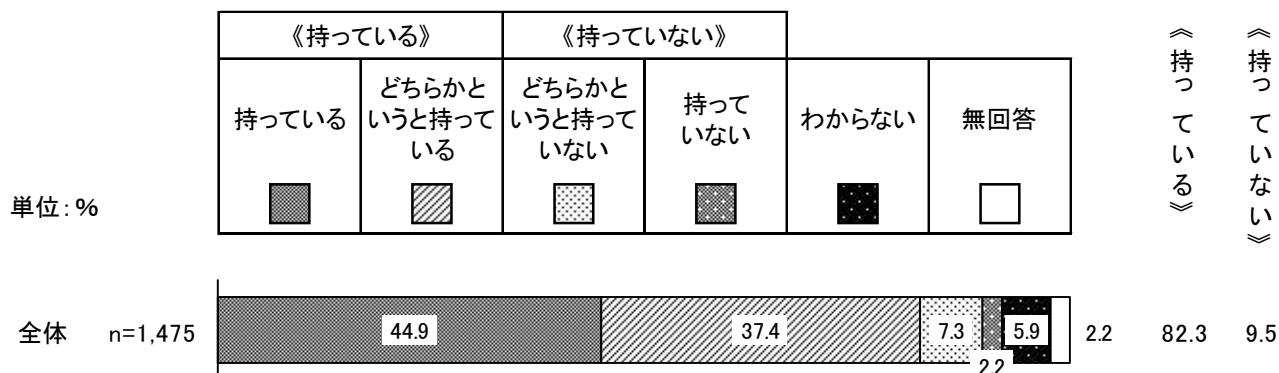


(18) 川越市への愛着

◇ 《持っている》が 82.3%

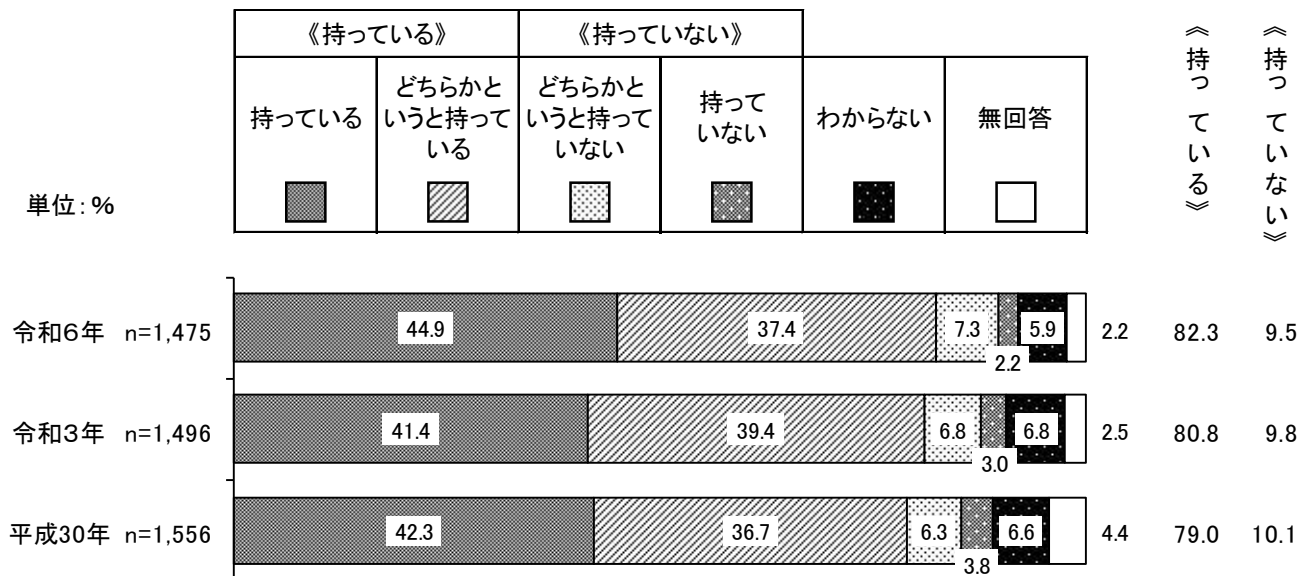
問 64 あなたは、川越市に愛着をお持ちですか。(1つのみ)

川越市への愛着については、「持っている」、「どちらかというを持っている」の合計値《持っている》は 82.3%である一方、「どちらかというと持っていない」、「持っていない」の合計値《持っていない》は 9.5%と、《持っている》が 72.8 ポイント上回っている。



■ 時系列での比較

時系列でみると、《持っている》は前回調査より 1.5 ポイント、平成 30 年度より 3.3 ポイント増加し、増加傾向となっている。



■ 性別・年代別

性別・年代別でみると、『持っている』は男女とも全ての年代で7割以上となっており、女性70歳代以上は9割を超え高くなっている。一方、『持っていない』は男性40歳代で2割近くとなっている。

単位: %	《持っている》		《持っていない》		わからない	無回答	《持っている》 合計値	《持っていない》 合計値
	持っている	どちらかという と持っている	どちらかという と持っていない	持っていない				
全体 n=1,475	44.9	37.4	7.3	2.2	5.9	2.2	82.3	9.5
【性別・年代別】								
男性 n=597	50.4	34.2	8.7	2.0	4.4	0.3	84.6	10.7
男性18・19歳 n=12	33.3	41.7	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
男性20歳代 n=50	52.0	36.0	8.0	0.0	4.0	0.0	88.0	8.0
男性30歳代 n=53	43.4	39.6	7.5	3.8	5.7	0.0	83.0	11.3
男性40歳代 n=83	48.2	27.7	12.0	6.0	6.0	0.0	75.9	18.0
男性50歳代 n=120	40.8	42.5	8.3	4.2	4.2	0.0	83.3	12.5
男性60歳代 n=113	57.5	31.0	7.1	0.0	4.4	0.0	88.5	7.1
男性70歳以上 n=166	56.6	30.7	7.8	0.0	3.6	1.2	87.3	7.8
女性 n=829	42.6	40.8	6.5	2.3	7.0	0.8	83.4	8.8
女性18・19歳 n=5	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
女性20歳代 n=57	36.8	45.6	7.0	3.5	7.0	0.0	82.4	10.5
女性30歳代 n=94	27.7	47.9	13.8	2.1	7.4	1.1	75.6	15.9
女性40歳代 n=148	41.2	35.8	6.8	5.4	10.1	0.7	77.0	12.2
女性50歳代 n=174	42.0	42.5	6.9	2.9	5.7	0.0	84.5	9.8
女性60歳代 n=141	44.7	37.6	6.4	1.4	9.9	0.0	82.3	7.8
女性70歳以上 n=209	50.7	40.7	2.9	0.0	3.8	1.9	91.4	2.9

■ 居住地区別

居住地区別でみると、『持っている』は『霞ヶ関北地区』が94.2%で最も高く、次いで『古谷地区』が88.1%、『南古谷地区』が87.1%となっている。一方、『持っていない』は『高階地区』が15.9%で最も高くなっている。

単位: %	《持っている》		《持っていない》		わからない	無回答	《持っている》 合計値	《持っていない》 合計値
	持っている	どちらかという と持っている	どちらかという と持っていない	持っていない				
全体 n=1,475	44.9	37.4	7.3	2.2	5.9	2.2	82.3	9.5
【居住地区別】								
本庁地区 n=330	52.1	33.9	6.4	1.5	5.8	0.3	86.0	7.9
芳野地区 n=44	45.5	40.9	2.3	2.3	9.1	0.0	86.4	4.6
古谷地区 n=59	59.3	28.8	5.1	3.4	1.7	1.7	88.1	8.5
南古谷地区 n=131	40.5	46.6	5.3	2.3	5.3	0.0	87.1	7.6
高階地区 n=157	39.5	37.6	12.7	3.2	6.4	0.6	77.1	15.9
福原地区 n=94	43.6	39.4	4.3	7.4	5.3	0.0	83.0	11.7
大東地区 n=138	49.3	37.0	7.2	0.0	5.8	0.7	86.3	7.2
霞ヶ関地区 n=163	44.8	37.4	9.8	0.0	7.4	0.6	82.2	9.8
川鶴地区 n=71	43.7	39.4	8.5	1.4	7.0	0.0	83.1	9.9
霞ヶ関北地区 n=52	44.2	50.0	3.8	0.0	0.0	1.9	94.2	3.8
名細地区 n=96	37.5	37.5	10.4	4.2	9.4	1.0	75.0	14.6
山田地区 n=77	48.1	37.7	5.2	2.6	5.2	1.3	85.8	7.8

(19) 希望する市税納付方法

◇「コンビニエンス・ストア」が 39.5%

**問 65 あなたが市税（国民健康保険税を含む）を納める方法として希望するのは次のどれですか。
次の中から2つ以内で選んでください。（2つまで）**

希望する市税納付方法については、「コンビニエンス・ストア」が 39.5%で最も高く、次いで「口座振替」が 37.2%、「金融機関 及び ゆうちょ銀行・郵便局の窓口」が 28.5%、「スマートフォン決済アプリによる納付」が 19.3%となっている。

